

介護福祉科シラバス

2年課程

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の实務経験
山崎 年幸	介護総合演習 I	60	病院 介護福祉士として勤務
内平 八重子	認知症の理解	60	社会福祉協議会 地域センター長として勤務 町 保健師として勤務
河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設 看護師として勤務
	障害の理解	60	

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
上原 尚子	生活支援技術Ⅰ	20	医療施設にて管理栄養士、介護福祉士、健康運動指導士として勤務
	生活支援技術Ⅱ	10	
内平 八重子	認知症の理解	60	保健師として勤務,社会福祉協議会にて社会福祉士として勤務
小田 理恵	生活支援技術Ⅱ	80	高齢者福祉施設にて相談員として勤務
河野 ひろ子	発達と老化の理解	60	病院、高齢者施設にて看護師として勤務
	障害の理解	60	
	介護過程Ⅱ	60	
	介護総合演習Ⅱ	60	
	生活支援技術Ⅲ	26	
	医療的ケアⅠ	50	
	医療的ケアⅡ	20	
崎井 真弓	生活支援技術Ⅰ	20	病院にて看護師として勤務
	介護総合演習Ⅱ	60	
	介護過程Ⅲ	30	
	こころとからだのしくみⅠ	30	
	こころとからだのしくみⅡ	60	
	医療的ケアⅠ	50	
	医療的ケアⅡ	20	
澤田 祥子	コミュニケーション技術	20	広島県ろうあ連盟から派遣され手話通訳士として多部門で勤務
野村 裕之	介護の基本Ⅰ	100	病院にて介護福祉士として勤務
	介護の基本Ⅱ	30	
山崎 年幸	人間関係とコミュニケーション	40	
	生活支援技術Ⅱ	140	
	介護総合演習Ⅰ	60	
	介護過程Ⅰ	60	
牟田口 辰巳	生活支援技術Ⅲ	4	日本リハビリテーション連携科学会理事 元広島大学大学院教育学研究科特別支援教育講座教授
河野 ひろ子 山崎 年幸 各実習施設指導者	介護実習Ⅰ	45	実習施設指導者は高齢者福祉施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要)
	介護実習Ⅱ	90	
	介護実習Ⅲ	135	
	介護実習Ⅳ	180	
		1680	

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

介護福祉科 1680時間

令和7年度 授業概要

科目名 生活支援技術 I (栄養)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 上原 尚子 元 クリニック管理栄養士
授業の回数 10	時間数 20	配当学年・時期 1年 介護福祉科	
[授業の目的・ねらい] 支援対象者の生活をより安全で健康的な食生活にするために、「自立に向けた食事の介護」を学ぶ			
[授業全体の内容の概要] 三大栄養素(たんぱく質、脂質、炭水化物)をはじめとし、生活支援に必要な栄養学の基礎知識を学ぶ 高齢者や様々な疾患の特長と栄養的観点からの支援方法を学ぶ			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 栄養摂取の重要性とその適切な方法を修得する。 高齢者や疾患のある対象者に必要な栄養の知識を修得する			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 自立に向けた食事の介護「食とは」 2 自立に向けた食事の介護「栄養素」 3 栄養に関する基礎知識① 炭水化物 4 栄養に関する基礎知識② 脂質 5 栄養に関する基礎知識③ タンパク質 6 栄養に関する基礎知識④ ミネラル・ビタミン 7 安全で的確な食事の介護 高齢者の栄養と食事 8 疾患別の栄養と食事① 9 疾患別の栄養と食事② 10 試験			
[使用テキスト] 教科書、プリント		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 授業内の提出物と試験を行い、 その内容で評価する	
[参考文献]			

令和7年度 授業概要

科目名 生活支援技術 II (調理)		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 宇原 尚子 元 クリニック管理栄養士
授業の回数 5	時間数 10	配当学年・時期 1年 介護福祉科	
[授業の目的・ねらい] 咀嚼や嚥下機能が低下している支援対象者に対し、普段食べている食事(常食)に近い形で食事を提供するための技術を修得する			
[授業全体の内容の概要] 生活支援技術 I (栄養)で学んだ、高齢者に提供する食事を実際に作りその技術を修得する また、実際に実習を行うことにより、作業手順や効率、調理時のポイントなどを学ぶ			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 支援を必要とする人物が様々な存在し、その支援内容は多種多様であることを知る 食事内容を個々人で検討し、それを自分達で共同して提供できる形・味にする			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護食とその調理に関する基礎知識 2 嚥下機能の低下した対象者に提供する食事の実習 (お粥、ソフト食、ミキサー食) ① 3 嚥下機能の低下した対象者に提供する食事の実習 (お粥、ソフト食、ミキサー食) ② 4 課題対象者に対する食事の作成 ① (試験) 5 課題対象者に対する食事の作成 ② (試験)			
[使用テキスト] プリント		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 各班ごとに対象者を決め、その対象者にあった食事内容を献立作成し、実習する 完成した、献立と、レポートによって評価する	
[参考文献]			

令和7年度 授業概要

科目名 認知症の理解 I		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元看護師、社会福祉協議会勤務
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護福祉科1年 前期	
[授業の目的・ねらい] 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、座学だけでなく、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解する。 ・医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し生活支援を行うための根拠となる知識を理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 認知症とは何か 2 脳のしくみ 3 中核症状・生活障害 4 行動・心理症状 5 原因疾患と症状・若年性認知症 6 検査・治療・予防 7 取り巻く状況・理念と視点 8 当事者の視点 9 パーソンセンタードケア 10 アセスメントツール 11 認知症のケア① 12 認知症のケア② 13 アプローチ 14 復習 15 まとめ／単位認定試験			
[使用テキスト] 最新介護福祉士養成講座 認知症の理解(中央法規) その他、適宜資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 授業態度 20% 確認テスト 20% 単位認定試験 60%	
[参考文献]			

令和7年度 授業概要

科目名 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 (講義)・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元看護師、社会福祉協議会勤務						
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 介護福祉科2年 前期							
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。</p>									
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症を取り巻く状況、医学的側面から見た認知症の基礎、認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援などについて、座学だけでなく、認知症のある人の生活の様子を視聴覚教材や事例検討を通して理解する。</p>									
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人の生活及び家族や社会との関わりへの影響を理解し、その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践が分かる。 ・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や、多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解する。 ・認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族の受容段階や介護力に応じた支援が分かる。 									
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 家族支援・介護者の対応 2 高齢者虐待 3 制度・施策 4 地域生活支援P294- 5 連携と協働 6 復習：認知症を取り巻く状況 7 復習：原因疾患 8 復習：中核症状・生活障害 9 復習：行動・心理症状 10 復習：間違われやすい疾患症状 11 復習：検査・治療・予防 12 復習：生活の支援 13 復習：制度政策 14 復習：連携と協働 15 まとめ／単位認定試験 									
<p>[使用テキスト]</p> <p>最新介護福祉士養成講座 認知症の理解(中央法規) その他、適宜資料を配布する</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="padding-right: 20px;">授業態度</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>確認テスト</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>単位認定試験</td> <td>60%</td> </tr> </table>		授業態度	20%	確認テスト	20%	単位認定試験	60%
授業態度	20%								
確認テスト	20%								
単位認定試験	60%								
<p>[参考文献]</p>									

令和7年度 授業概要

科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 山崎年幸 元病院介護福祉士 小田理恵 高齢者福祉施設相談員			
授業の駒数 40コマ	時間数 80時間	配当学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年		
<p>[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。</p>						
<p>[授業全体の内容の概要] 対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、ICFの視点を活かすことの意義を理解し、生活支援の実践根拠について説明できる能力を身につける内容とする。</p>						
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 自立に向けた移動に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。 自立に向けた身自宅に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。 自立に向けた食事に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。 自立に向けた入浴・清潔の保持に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。 自立に向けた排泄の介護に関するアセスメントと生活支援技術の基本を習得する。 生活支援技術の実践の根拠について説明できる能力を身につける。</p>						
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 1 生活支援技術とは 2 自立に向けた居住環境の整備 3 居住環境の整備(ベッドメイキング①) 4 ベッドメイキング② 5 ボディメカニクス 6 自立に向けた移動の介護 7 自立に向けた身じたくの介護 8 衣服着脱① 9 衣服着脱② 10 整容① 11 整容② 12 自立に向けた移動の介護(歩行支援①) 13 歩行支援② 14 車いすの種類と役割 15 車いす介助① 16 車いす介助② 17 自立に向けた食事の介護 18 食事の支援① 19 食事の支援② 20 食事の支援③口腔ケア </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> 21 実習前支援技術復習① 22 実習前支援技術復習② 23 実習後振り返り 24 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 25 入浴の支援① 26 入浴の支援② 27 入浴の支援③ 28 自立に向けた排泄の介護 29 排泄の支援①(種類と構造) 30 排泄の支援②(ポータブルトイレ) 31 排泄の支援③(おむつ交換) 32 実習前支援技術復習① 33 実習前支援技術復習② 34 実習後振り返り①個人・グループワーク 35 実習後振り返り②グループワーク・発表(実践) 36 実技試験説明・練習 37 実技試験練習 38 実技試験① 39 実技試験② 40 筆記試験 </td> </tr> </table>					<ul style="list-style-type: none"> 1 生活支援技術とは 2 自立に向けた居住環境の整備 3 居住環境の整備(ベッドメイキング①) 4 ベッドメイキング② 5 ボディメカニクス 6 自立に向けた移動の介護 7 自立に向けた身じたくの介護 8 衣服着脱① 9 衣服着脱② 10 整容① 11 整容② 12 自立に向けた移動の介護(歩行支援①) 13 歩行支援② 14 車いすの種類と役割 15 車いす介助① 16 車いす介助② 17 自立に向けた食事の介護 18 食事の支援① 19 食事の支援② 20 食事の支援③口腔ケア 	<ul style="list-style-type: none"> 21 実習前支援技術復習① 22 実習前支援技術復習② 23 実習後振り返り 24 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 25 入浴の支援① 26 入浴の支援② 27 入浴の支援③ 28 自立に向けた排泄の介護 29 排泄の支援①(種類と構造) 30 排泄の支援②(ポータブルトイレ) 31 排泄の支援③(おむつ交換) 32 実習前支援技術復習① 33 実習前支援技術復習② 34 実習後振り返り①個人・グループワーク 35 実習後振り返り②グループワーク・発表(実践) 36 実技試験説明・練習 37 実技試験練習 38 実技試験① 39 実技試験② 40 筆記試験
<ul style="list-style-type: none"> 1 生活支援技術とは 2 自立に向けた居住環境の整備 3 居住環境の整備(ベッドメイキング①) 4 ベッドメイキング② 5 ボディメカニクス 6 自立に向けた移動の介護 7 自立に向けた身じたくの介護 8 衣服着脱① 9 衣服着脱② 10 整容① 11 整容② 12 自立に向けた移動の介護(歩行支援①) 13 歩行支援② 14 車いすの種類と役割 15 車いす介助① 16 車いす介助② 17 自立に向けた食事の介護 18 食事の支援① 19 食事の支援② 20 食事の支援③口腔ケア 	<ul style="list-style-type: none"> 21 実習前支援技術復習① 22 実習前支援技術復習② 23 実習後振り返り 24 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 25 入浴の支援① 26 入浴の支援② 27 入浴の支援③ 28 自立に向けた排泄の介護 29 排泄の支援①(種類と構造) 30 排泄の支援②(ポータブルトイレ) 31 排泄の支援③(おむつ交換) 32 実習前支援技術復習① 33 実習前支援技術復習② 34 実習後振り返り①個人・グループワーク 35 実習後振り返り②グループワーク・発表(実践) 36 実技試験説明・練習 37 実技試験練習 38 実技試験① 39 実技試験② 40 筆記試験 					
<p>[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新 介護福祉士養成講座6」生活支援技術Ⅰ 中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会編集「最新 介護福祉士養成講座7」生活支援技術Ⅱ 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 学則に定めるとおり</p>				
<p>[参考文献]</p>						

令和7年度 授業概要

科目名 生活支援技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 年幸 元病院介護福祉士																																																																
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 介護福祉科2年・通年																																																																	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p>																																																																			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を学習する。 2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 3. 入浴に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 4. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 5. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 6. 人生の最終段階に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 7. 福祉用具に関連するアセスメントと介護技術を学習する。 																																																																			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身じたくに関連するアセスメントと介護技術を習得する。 2. 移動に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 3. 入浴に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 4. 排泄に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 5. 睡眠に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 6. 人生の最終段階に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 7. 福祉用具に関連するアセスメントと介護技術を習得する。 																																																																			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%;">1 自立に向けた移</td> <td style="width: 25%;">骨格系・筋肉系の解剖・生理学</td> <td style="width: 25%;">16 自立に向けた休</td> <td style="width: 25%;">休息・睡眠におけるアセスメント</td> </tr> <tr> <td>2 動の介護</td> <td>車いす・床の間の移動</td> <td>17 息・睡眠の介護</td> <td>睡眠の種類とパターン、不眠の原因</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>移動に関する自立活動と事故防止</td> <td>18</td> <td>安眠のための介護</td> </tr> <tr> <td>4 自立に向けた身</td> <td>外皮系の解剖・生理学</td> <td>19</td> <td>状態に応じた休息・睡眠の支援</td> </tr> <tr> <td>5 じたくの介護</td> <td>衣服の着脱(臥位)</td> <td>20</td> <td>温罨法・冷罨法</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>褥瘡ケア・褥瘡予防方法</td> <td>21 人生の最終段</td> <td>人生の最終段階とは</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>身じたくについて多職種協働</td> <td>22 階における介護</td> <td>人生の最終段階におけるアセスメント</td> </tr> <tr> <td>8 自立に向けた入</td> <td>消化器系の解剖・生理学</td> <td>23</td> <td>疾患と終末期</td> </tr> <tr> <td>9 浴・清潔保持の介</td> <td>全身清拭</td> <td>24</td> <td>終末期における心身の状況と対応</td> </tr> <tr> <td>10 護</td> <td>足浴・手浴</td> <td>25</td> <td>死後のケア</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>洗髪</td> <td>26</td> <td>グリーフケア</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>入浴に関連して起こりやすい事故と対応</td> <td>27 自立に向けた福</td> <td>福祉用具の意義・目的</td> </tr> <tr> <td>13 自立に向けた向</td> <td>泌尿器系の解剖・生理学</td> <td>28 祉用具の活用</td> <td>福祉用具活用におけるアセスメント</td> </tr> <tr> <td>14 けた排泄の介護</td> <td>排泄支援(尿器・便器)</td> <td>29</td> <td>起居、床ずれ防止、移動関連用具</td> </tr> <tr> <td>15 自立に向けた休</td> <td>休息・睡眠の意義・目的</td> <td>30</td> <td>排泄、入浴、身じたく、食事、社会参加関連用具</td> </tr> <tr> <td></td> <td>休息・睡眠の介護</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				1 自立に向けた移	骨格系・筋肉系の解剖・生理学	16 自立に向けた休	休息・睡眠におけるアセスメント	2 動の介護	車いす・床の間の移動	17 息・睡眠の介護	睡眠の種類とパターン、不眠の原因	3	移動に関する自立活動と事故防止	18	安眠のための介護	4 自立に向けた身	外皮系の解剖・生理学	19	状態に応じた休息・睡眠の支援	5 じたくの介護	衣服の着脱(臥位)	20	温罨法・冷罨法	6	褥瘡ケア・褥瘡予防方法	21 人生の最終段	人生の最終段階とは	7	身じたくについて多職種協働	22 階における介護	人生の最終段階におけるアセスメント	8 自立に向けた入	消化器系の解剖・生理学	23	疾患と終末期	9 浴・清潔保持の介	全身清拭	24	終末期における心身の状況と対応	10 護	足浴・手浴	25	死後のケア	11	洗髪	26	グリーフケア	12	入浴に関連して起こりやすい事故と対応	27 自立に向けた福	福祉用具の意義・目的	13 自立に向けた向	泌尿器系の解剖・生理学	28 祉用具の活用	福祉用具活用におけるアセスメント	14 けた排泄の介護	排泄支援(尿器・便器)	29	起居、床ずれ防止、移動関連用具	15 自立に向けた休	休息・睡眠の意義・目的	30	排泄、入浴、身じたく、食事、社会参加関連用具		休息・睡眠の介護		
1 自立に向けた移	骨格系・筋肉系の解剖・生理学	16 自立に向けた休	休息・睡眠におけるアセスメント																																																																
2 動の介護	車いす・床の間の移動	17 息・睡眠の介護	睡眠の種類とパターン、不眠の原因																																																																
3	移動に関する自立活動と事故防止	18	安眠のための介護																																																																
4 自立に向けた身	外皮系の解剖・生理学	19	状態に応じた休息・睡眠の支援																																																																
5 じたくの介護	衣服の着脱(臥位)	20	温罨法・冷罨法																																																																
6	褥瘡ケア・褥瘡予防方法	21 人生の最終段	人生の最終段階とは																																																																
7	身じたくについて多職種協働	22 階における介護	人生の最終段階におけるアセスメント																																																																
8 自立に向けた入	消化器系の解剖・生理学	23	疾患と終末期																																																																
9 浴・清潔保持の介	全身清拭	24	終末期における心身の状況と対応																																																																
10 護	足浴・手浴	25	死後のケア																																																																
11	洗髪	26	グリーフケア																																																																
12	入浴に関連して起こりやすい事故と対応	27 自立に向けた福	福祉用具の意義・目的																																																																
13 自立に向けた向	泌尿器系の解剖・生理学	28 祉用具の活用	福祉用具活用におけるアセスメント																																																																
14 けた排泄の介護	排泄支援(尿器・便器)	29	起居、床ずれ防止、移動関連用具																																																																
15 自立に向けた休	休息・睡眠の意義・目的	30	排泄、入浴、身じたく、食事、社会参加関連用具																																																																
	休息・睡眠の介護																																																																		
<p>[使用テキスト]</p> <p>「最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ」 「最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 学則に定める通り</p>																																																																	
<p>[参考文献]</p>																																																																			

令和7年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">医療的ケア I</p>	授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師
授業の回数 34回	時間数 50時間	配当学年・時期 介護福祉科2年
[授業の目的・ねらい] 生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する		
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 医療的ケアに関する基礎的知識が理解できる 2 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 3 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数		
第1節 医療的ケアの基礎 1 医療的ケアを学ぶ目的・医行為とは 2 医療的ケアの歴史的変遷・保健医療制度 3 個人の尊厳と医療の倫理 ① 4 個人の尊厳と医療の倫理 ② 5 医療的ケアを安全に行うための研修 6 チーム医療・医療過誤 7 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施 8 救急蘇生 9 健康状態の把握・急変状態について 10 バイタルサインの測定 11 清潔保持と感染予防・手洗い 12 実技試験・滅菌と消毒 13 確認試験 第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引 13 呼吸のしくみとはたらき 14 「喀痰吸引」とは・呼吸系の感染と予防 15 人工呼吸器と吸引 16 喀痰吸引で用いる器具の理解 17 口腔内吸引の実施手順 18 口腔内吸引の留意点 19 鼻腔内吸引の実施手順 20 鼻腔内吸引の留意点	21 気管カニューレ内部の吸引の実施手順 22 気管カニューレ内部の吸引の留意点 23 子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア 24 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、記録・報告 25 確認試験 第3節 高齢者および障害児・者の経管栄養 25 消化器系のしくみとはたらき・「経管栄養」とは 26 注入する内容に関する知識・ 27 経管栄養に関する感染と予防 経管栄養で用いる器具の理解・清潔保持 28 胃ろう・腸ろう経管栄養の実施手順 29 胃ろう・腸ろう経管栄養の留意点 30 経鼻経管栄養の実施手順 31 経鼻経管栄養の留意点 32 こどもの経管栄養・経管栄養に必要なケア 33 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、記録・報告 34 まとめ・単位認定試験	
[使用テキスト] 最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物
[参考文献] 「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会 「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社		

令和7年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">医療的ケアⅡ</p>	授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 河野 ひろ子・崎井 真弓
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 介護福祉科2年
[授業の目的・ねらい] 生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する		
[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 2 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 口腔内吸引 練習(医Ⅰ ⑰のあと) 2 口腔内吸引 試験 3 鼻腔内吸引 練習(医Ⅰ ⑲のあと) 4 鼻腔内吸引 試験 5 気管カニューレ内部の吸引 練習(医Ⅰ ⑳のあと) 6 気管カニューレ内部の吸引 試験 7 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 練習(医Ⅰ ㉔のあと) 8 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 試験 9 経鼻経管栄養 練習(医Ⅰ ㉖のあと) 10 経鼻経管栄養 試験		
[使用テキスト] 最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献] 「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会 「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社		

令和7年度 授業概要

科目名 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 通年
〔授業の目的・ねらい〕 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行ない、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法について学習する。 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について学習する。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法について理解する。 個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開について理解する。				
〔授業の各回テーマ・内容〕				
駒				
1	アセスメント①	多角的な情報収集の重要性		
2	アセスメント②	ICFの視点による情報の整理		
3	生活課題の抽出	ICF構成因子の関連性をみる		
4	目標および具体的援助内容について	ニーズの原因を考え、その対策を具体的にする		
5	介護過程の展開の理解（実践的展開）	脳血管障害がある人の介護過程の展開①		
6		脳血管障害がある人の介護過程の展開②		
7		脳血管障害がある人の介護過程の展開③		
8		脳血管障害がある人の介護過程の展開④		
9		脊髄損傷がある人の介護過程の展開①		
10		脊髄損傷がある人の介護過程の展開②		
11		脊髄損傷がある人の介護過程の展開③		
12		脊髄損傷がある人の介護過程の展開④		
13		受け持ち利用者の情報整理①		
14		受け持ち利用者の情報整理②		
15		受け持ち利用者の介護計画の整理		
16		事例による介護過程の展開①		
17		事例による介護過程の展開②		
18	介護過程とチームアプローチ	介護福祉職がチームとして介護過程を展開する意義・目的		
19		カンファレンスの意義・目的		
20		介護サービス計画と個別サービス計画の関係		
21		多職種連携における介護過程の展開の意義とサービス担当者会議		
22	介護過程の展開の理解（実践的展開）	終末期における介護過程の展開①		
23		終末期における介護過程の展開②		
24		終末期における介護過程の展開③		
25		終末期における介護過程の展開④		
26		受け持ち利用者の情報整理①		
27		受け持ち利用者の情報整理②		
28		受け持ち利用者の介護計画の整理		
29		受け持ち利用者の介護計画・実施・評価の整理		
30	介護過程のまとめ	まとめ・単位認定試験		
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座」9 介護過程 中央法規 「介護福祉学5上 こころとからだのしくみ」 主婦の友社		〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物		
〔参考文献〕				

令和7年度 授業概要

科目名 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 河野 ひろ子 元病院・高齢者施設看護師 崎井 真弓 元病院看護師																														
授業の駒数 30	時間数 60	配当学年・時期 介護福祉科2年 通年																															
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護演習は、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことをねらいとしている。</p> <p>そして、最終目的として、養成教育全体の総まとめであり、自己の介護観や介護福祉士としての倫理観や職業観の確立に向けて演習を行う。</p>																																	
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護総合演習Ⅱでは、参加実習、総合実習の実習全体の流れを軸において、理論学習や演習と関連付けながら、それぞれの実習に向けて、より効果的な実習が展開できるように準備をする。</p> <p>実習巡回・帰校日を実施しながら、実習が円滑に行われるようにする。</p> <p>実習後には、実習報告会を設けて、実習を学生全体のまなびとなるようにする。またケーススタディを通し、視野を広げ、学びを深め、介護についてその根拠を考察し、探求できるよう、サポートする。</p>																																	
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 介護実習の指導 2, 他科目での学びの統合化 3, 多職種協働の意味と重要性の意識化 4, 養成教育全体の総まとめ・・・自己の介護観を確立することができる 																																	
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table border="0"> <tr> <td>1 参加実習について考える</td> <td>16 実習報告会(参加実習)</td> </tr> <tr> <td>2 参加実習のねらい</td> <td>17 総合実習のねらい</td> </tr> <tr> <td>3 介護過程展開</td> <td>18 総合実習の実習計画 個人票</td> </tr> <tr> <td>4 実習計画と個人票の作成</td> <td>19 介護過程と記録</td> </tr> <tr> <td>5 夜間実習・緊急時の対応について</td> <td>20 心構え 用紙整理</td> </tr> <tr> <td>6 多職種の連携</td> <td>21 自己評価・お礼状</td> </tr> <tr> <td>7 介護過程の記録について①</td> <td>22 記録の整理</td> </tr> <tr> <td>8 介護過程の記録について②</td> <td>23 実習報告会の資料づくり</td> </tr> <tr> <td>9 心構え 用紙の整理</td> <td>24 実習報告会の資料づくり</td> </tr> <tr> <td>10 自己評価、お礼状</td> <td>25 実習報告会の準備</td> </tr> <tr> <td>11 実習記録の再検討</td> <td>26 実習報告会①</td> </tr> <tr> <td>12 実習報告会の資料づくり</td> <td>27 実習報告会②</td> </tr> <tr> <td>13 実習報告会の資料づくり</td> <td>28 実習報告会②</td> </tr> <tr> <td>14 実習報告会の準備</td> <td>29 まとめ</td> </tr> <tr> <td>15 実習報告会(参加実習)</td> <td>30 単位認定試験</td> </tr> </table>				1 参加実習について考える	16 実習報告会(参加実習)	2 参加実習のねらい	17 総合実習のねらい	3 介護過程展開	18 総合実習の実習計画 個人票	4 実習計画と個人票の作成	19 介護過程と記録	5 夜間実習・緊急時の対応について	20 心構え 用紙整理	6 多職種の連携	21 自己評価・お礼状	7 介護過程の記録について①	22 記録の整理	8 介護過程の記録について②	23 実習報告会の資料づくり	9 心構え 用紙の整理	24 実習報告会の資料づくり	10 自己評価、お礼状	25 実習報告会の準備	11 実習記録の再検討	26 実習報告会①	12 実習報告会の資料づくり	27 実習報告会②	13 実習報告会の資料づくり	28 実習報告会②	14 実習報告会の準備	29 まとめ	15 実習報告会(参加実習)	30 単位認定試験
1 参加実習について考える	16 実習報告会(参加実習)																																
2 参加実習のねらい	17 総合実習のねらい																																
3 介護過程展開	18 総合実習の実習計画 個人票																																
4 実習計画と個人票の作成	19 介護過程と記録																																
5 夜間実習・緊急時の対応について	20 心構え 用紙整理																																
6 多職種の連携	21 自己評価・お礼状																																
7 介護過程の記録について①	22 記録の整理																																
8 介護過程の記録について②	23 実習報告会の資料づくり																																
9 心構え 用紙の整理	24 実習報告会の資料づくり																																
10 自己評価、お礼状	25 実習報告会の準備																																
11 実習記録の再検討	26 実習報告会①																																
12 実習報告会の資料づくり	27 実習報告会②																																
13 実習報告会の資料づくり	28 実習報告会②																																
14 実習報告会の準備	29 まとめ																																
15 実習報告会(参加実習)	30 単位認定試験																																
<p>[使用テキスト]</p> <p>・介護福祉士養成講座編集委員会編:「介護総合演習・介護実習」, 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>・学校規定に準ずる 試験60点以上</p>																															
<p>[参考文献]</p>		<p>・実習時の提出物などの提出の有無、内容も採点の評価とする。</p>																															

科目名 障害の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年
〔授業の目的・ねらい〕 障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。				
〔授業全体の概要〕 障害の理解では、障害の基礎的理解として、障害の概念や基本的理念、さらに障害の医学的・心理的側面の基本的な知識を学び、障害のある人のライフステージや特性に応じた支援、他職種連携と協働、家族への支援について学ぶ。				
〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 ①障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。 ②医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。 ③障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。 ④障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。 障害のある人を支える家族の課題とその支援について理解できる。				
〔授業の各回テーマ・内容〕				
1	障害の基礎的理解	障害の概念		
2		障害者福祉の基本理念①		
3		障害者福祉の基本理念②		
4	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と	障害のある人の心理		
5	特性に応じた支援Ⅰ	肢体不自由（脳血管障害）		
7		肢体不自由（ALS・パーキンソン病・脊髄損傷）		
8		肢体不自由（脳性麻痺・筋原性疾患）		
9		肢体不自由（運動器の障害）		
10		視覚障害の医学的理解		
11		視覚障害の生活の理解（点字・日常生活への支援）		
12		聴覚・平衡障害		
13		音声・言語・嚥下障害		
14		重複障害		
15		重症心身障害		
16		前半のまとめ		
17	障害別の医学的・心理的側面の基礎的理解と	内部障害（心臓・呼吸器）		
18	特性に応じた支援Ⅱ	内部障害（腎臓・膀胱・直腸機能）		
19		内部障害（肝臓・免疫機能）		
20		知的障害		
21		精神障害の基礎的理解		
22		精神障害者の心理的理解と支援		
23		高次脳機能障害		
24		発達障害		
25		難病の定義 種類と特性		
26	障害のある人の生活と支援	障害者福祉に関連する制度		
27		障害者の就労		
28	連携と協働	地域におけるサポート体制・チームアプローチ		
29	家族への支援	障害を持つ人の家族の状況と支援		
30	全体のまとめ	全体の復習		
単位認定試験				
〔使用テキスト〕 「最新介護福祉士養成講座 14障害の理解」 〔参考文献〕 「介護福祉学4 障害の理解」主婦の友社		中央法規	〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物	

令和7年度 授業概要

科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師																																											
授業の駒数 15	時間数 30	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 通年																																										
<p>障害や疾病のある人のさまざまな暮らし、さまざまな思いを理解し、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。対象者個々の障害と生活への影響を理解し、生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。</p>																																														
<p>〔授業全体の概要〕</p> <p>ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、自立に向けた移動、身支度、食事、入浴・清潔保持、排せつ、睡眠の介護等について、各障害・疾病別に学ぶ。</p> <p>各障害・疾病の詳しい原因や症状、治療、制度的な位置づけについては、「障害の理解」で学び、具体的にどのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかわりができるのかを学ぶ。</p>																																														
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>①障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解する。(障害の理解の復習)</p> <p>②障害や疾病のある人の生活上の困りごとを理解できる。</p> <p>③障害や疾病のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解できる。</p>																																														
<p>〔授業の各回テーマ・内容〕</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">駒</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 視覚障害のある人の生活支援技術</td> <td>視覚障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>視覚障害の移動援助 外出援助</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>点字を学び、名刺作り</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>盲導犬に直接触れて、その実際を理解する</td> </tr> <tr> <td>5 障害者スポーツの実際</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6 発達障害のある人の生活支援技術</td> <td>知的障害を伴う発達障害のある人の生活支援技術</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>知的障害を伴わない発達障害のある人の生活支援技術</td> </tr> <tr> <td>8 精神障害のある人の生活支援技術</td> <td>事例(統合失調症・気分障害)で学ぶ生活支援の実際</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>高次脳機能障害のある人の生活</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>高次脳機能障害のある人の生活支援技術</td> </tr> <tr> <td>11 難病の人の生活支援技術</td> <td>筋萎縮性側索硬化症(ALS)の人の生活支援の実際</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>パーキンソン病の人の生活支援の実際</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>筋ジストロフィーの人の生活支援の実際</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合的な復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>単位認定試験</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20</td> <td></td> </tr> </table>					駒		1 視覚障害のある人の生活支援技術	視覚障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解	2	視覚障害の移動援助 外出援助	3	点字を学び、名刺作り	4	盲導犬に直接触れて、その実際を理解する	5 障害者スポーツの実際		6 発達障害のある人の生活支援技術	知的障害を伴う発達障害のある人の生活支援技術	7	知的障害を伴わない発達障害のある人の生活支援技術	8 精神障害のある人の生活支援技術	事例(統合失調症・気分障害)で学ぶ生活支援の実際	9	高次脳機能障害のある人の生活	10	高次脳機能障害のある人の生活支援技術	11 難病の人の生活支援技術	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の人の生活支援の実際	12	パーキンソン病の人の生活支援の実際	13	筋ジストロフィーの人の生活支援の実際	14	総合的な復習	15	単位認定試験	16		17		18		19		20	
駒																																														
1 視覚障害のある人の生活支援技術	視覚障害の医学的・心理的理解、困りごとの理解																																													
2	視覚障害の移動援助 外出援助																																													
3	点字を学び、名刺作り																																													
4	盲導犬に直接触れて、その実際を理解する																																													
5 障害者スポーツの実際																																														
6 発達障害のある人の生活支援技術	知的障害を伴う発達障害のある人の生活支援技術																																													
7	知的障害を伴わない発達障害のある人の生活支援技術																																													
8 精神障害のある人の生活支援技術	事例(統合失調症・気分障害)で学ぶ生活支援の実際																																													
9	高次脳機能障害のある人の生活																																													
10	高次脳機能障害のある人の生活支援技術																																													
11 難病の人の生活支援技術	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の人の生活支援の実際																																													
12	パーキンソン病の人の生活支援の実際																																													
13	筋ジストロフィーの人の生活支援の実際																																													
14	総合的な復習																																													
15	単位認定試験																																													
16																																														
17																																														
18																																														
19																																														
20																																														
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕																																												
「最新介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ」中央法規		<ul style="list-style-type: none"> ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物 																																												
〔参考文献〕																																														

令和7年度 授業概要

発達と老化の理解		授業の種類 講義	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師																																																															
授業の駒数 30	時間数 60	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 通年																																																														
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。</p>																																																																		
<p>〔授業全体の概要〕</p> <p>発達と老化の理解では、介護を必要とする人の理解を深めるため、人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。</p>																																																																		
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>①人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期（乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解できる。</p> <p>②老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援について理解できる。</p>																																																																		
<p>〔授業の各回テーマ・内容〕</p> <p>駒</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 人間の成長と発達の基礎的理解</td> <td>人間の成長と発達――導入</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>人間の成長と発達の原則 影響する因子</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>発達理論</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人間の発達段階と発達課題</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形態的成長</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>心理的機能の発達</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会的機能の発達</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>発達段階別にみた特徴的な疾病や障害</td> </tr> <tr> <td>9 老年期の特徴と発達課題</td> <td>老年期の定義と特徴</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>老年期の発達課題①</td> </tr> <tr> <td>11 老化に伴うところとからだの変化と生活</td> <td>老化とは 老化の特徴</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>老化に伴う精神機能の変化と生活への影響</td> </tr> <tr> <td></td> <td>老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響</td> </tr> <tr> <td>16 高齢者と健康</td> <td>健康長寿に向けての健康</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>サクセスフルエイジング</td> </tr> <tr> <td>18 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点</td> <td>高齢者に多い症状・疾患の特徴</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>老年症候群</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患 生活習慣病について</td> </tr> <tr> <td>21</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患①脳神経系</td> </tr> <tr> <td>22</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患②運動器系</td> </tr> <tr> <td>23</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患③循環器系</td> </tr> <tr> <td>24</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患④呼吸器系</td> </tr> <tr> <td>25</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患⑤糖尿病等</td> </tr> <tr> <td>26</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患⑥悪性新生物</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患⑦精神疾患</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>高齢者に多い代表的な疾患⑧熱中症その他</td> </tr> <tr> <td>29 保健・医療職との連携</td> <td>保健・医療職との連携の必要性</td> </tr> <tr> <td>30 まとめ</td> <td>総復習</td> </tr> </table>					1 人間の成長と発達の基礎的理解	人間の成長と発達――導入	2	人間の成長と発達の原則 影響する因子	3	発達理論	4	人間の発達段階と発達課題	5	形態的成長	6	心理的機能の発達	7	社会的機能の発達	8	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害	9 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義と特徴	10	老年期の発達課題①	11 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化とは 老化の特徴	12	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①	13	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②	14	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③	15	老化に伴う精神機能の変化と生活への影響		老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響	16 高齢者と健康	健康長寿に向けての健康	17	サクセスフルエイジング	18 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点	高齢者に多い症状・疾患の特徴	19	老年症候群	20	高齢者に多い代表的な疾患 生活習慣病について	21	高齢者に多い代表的な疾患①脳神経系	22	高齢者に多い代表的な疾患②運動器系	23	高齢者に多い代表的な疾患③循環器系	24	高齢者に多い代表的な疾患④呼吸器系	25	高齢者に多い代表的な疾患⑤糖尿病等	26	高齢者に多い代表的な疾患⑥悪性新生物	27	高齢者に多い代表的な疾患⑦精神疾患	28	高齢者に多い代表的な疾患⑧熱中症その他	29 保健・医療職との連携	保健・医療職との連携の必要性	30 まとめ	総復習
1 人間の成長と発達の基礎的理解	人間の成長と発達――導入																																																																	
2	人間の成長と発達の原則 影響する因子																																																																	
3	発達理論																																																																	
4	人間の発達段階と発達課題																																																																	
5	形態的成長																																																																	
6	心理的機能の発達																																																																	
7	社会的機能の発達																																																																	
8	発達段階別にみた特徴的な疾病や障害																																																																	
9 老年期の特徴と発達課題	老年期の定義と特徴																																																																	
10	老年期の発達課題①																																																																	
11 老化に伴うところとからだの変化と生活	老化とは 老化の特徴																																																																	
12	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響①																																																																	
13	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響②																																																																	
14	老化に伴う身体的機能の変化と生活への影響③																																																																	
15	老化に伴う精神機能の変化と生活への影響																																																																	
	老化に伴う社会的機能の変化と生活への影響																																																																	
16 高齢者と健康	健康長寿に向けての健康																																																																	
17	サクセスフルエイジング																																																																	
18 高齢者に多い症状・疾患の特徴と生活上の留意点	高齢者に多い症状・疾患の特徴																																																																	
19	老年症候群																																																																	
20	高齢者に多い代表的な疾患 生活習慣病について																																																																	
21	高齢者に多い代表的な疾患①脳神経系																																																																	
22	高齢者に多い代表的な疾患②運動器系																																																																	
23	高齢者に多い代表的な疾患③循環器系																																																																	
24	高齢者に多い代表的な疾患④呼吸器系																																																																	
25	高齢者に多い代表的な疾患⑤糖尿病等																																																																	
26	高齢者に多い代表的な疾患⑥悪性新生物																																																																	
27	高齢者に多い代表的な疾患⑦精神疾患																																																																	
28	高齢者に多い代表的な疾患⑧熱中症その他																																																																	
29 保健・医療職との連携	保健・医療職との連携の必要性																																																																	
30 まとめ	総復習																																																																	
〔使用テキスト〕 「介護福祉士養成講座」中央法規出版		〔単位認定の方法及び基準〕 ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物																																																																
〔参考文献〕																																																																		

令和7年度 授業概要

科目名 ころとからだのしくみⅡ	授業の種類 (講義・演習)	講師名 崎井 真弓 元病院看護師
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 介護福祉科1年
[授業の目的・ねらい] 解剖学、生理学、運動学、心理学等をもとに、人が生活する上でころとからだはどのようにはたらくのかを示し、介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる知識を習得する。さらに疾病の発生メカニズムを学ぶことにより、「予防の視点」を身につけることができ、介護福祉士として利用者にかかわる際の健康を意識した支援を実践する根拠が理解できる。		
[授業全体の内容の概要] 1 生命活動を維持する機能・恒常性が理解できる 2 生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じたころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解する 3 医療職との連携の必要性が理解できる。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 生命を維持する機能が理解できる 2 「移動」「身じたく」「食事」「入浴・清潔」「排泄」のしくみが理解できる 3 人体各部の機能低下・障害が及ぼす影響とその対処方法が理解できる 4 医療職との連携時の観察ポイントが理解できる		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 生命活動を維持するしくみ 恒常性の維持 2 恒常性の維持:自律神経 3 恒常性の維持:腎・泌尿器系 4 バイタルサイン測定の意義 5 演習-1 バイタルサイン測定 6 演習-2 バイタルサイン測定 7 ストレスに対抗するしくみ・防御システム 8 まとめ・単元試験 9 移動に関連したころとからだのしくみ 移動に関連したころとからだの基礎知識 10 移動に関連したころとからだのしくみ 11 演習-3 安定した姿勢 12 機能低下・障害の原因と及ぼす影響 13 ころとからだの変化の気づきと医療職との連携 14 身じたくに関連したころとからだの 感覚器の理解 15 しくみ 身じたくに関連したころとからだの基礎知識 16 身じたくに関連したころとからだのしくみ 17 機能低下・障害の原因と及ぼす影響 18 まとめ・単元試験 19 食事に関連したころとからだの 食事に関連したころとからだの基礎知識 20 しくみ 食事に関連したころとからだのしくみ 21 機能低下・障害の原因と及ぼす影響 22 演習-4 摂食・嚥下の方法 23 入浴・清潔に関連したころとからだの 入浴・清潔に関連したころとからだの基礎知識 24 しくみ 入浴・清潔に関連したころとからだのしくみ 25 機能低下・障害の原因と及ぼす影響 26 排泄に関連したころとからだのしくみ 排泄に関連したころとからだの基礎知識 27 排泄に関連したころとからだのしくみ 28 ころとからだの変化の気づきと医療職との連携 29 演習-5 排泄の方法 30 まとめ・単位認定試験		
[使用テキスト] 「新・介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ」中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物
[参考文献] 「介護福祉学5上 ころとからだのしくみ」主婦の友社 「からだのしくみ事典」成美堂出版 ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 人体の構造と機能」メディカ出版		

令和7年度 授業概要

科目名 医療的ケア I		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元病院看護師
授業の回数 34回	時間数 50時間	配当学年・時期 介護福祉科2年	
<p>[授業の目的・ねらい] 生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する</p>			
<p>[授業全体の内容の概要] 医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療的ケアに関する基礎的知識が理解できる 2 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 3 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる 			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数</p>			
第1節 医療的ケアの基礎	21	気管カニューレ内部の吸引の実施手順	
1 医療的ケアを学ぶ目的・医行為とは	22	気管カニューレ内部の吸引の留意点	
2 医療的ケアの歴史的変遷・保健医療制度	23	子どもの吸引・喀痰吸引に伴うケア	
3 個人の尊厳と医療の倫理 ①	24	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、記録・報告	
4 個人の尊厳と医療の倫理 ②	25		
5 医療的ケアを安全に行うための研修	25	確認試験	
6 チーム医療・医療過誤	25	第3節 高齢者および障害児・者の経管栄養	
7 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	25	消化器系のしくみとはたらき・「経管栄養」とは	
8 救急蘇生	26	注入する内容に関する知識	
9 健康状態の把握・急変状態について	27	経管栄養に関する感染と予防	
10 バイタルサインの測定	27	経管栄養で用いる器具の理解・清潔保持	
11 清潔保持と感染予防・手洗い	28	胃ろう・腸ろう経管栄養の実施手順	
12 実技試験・滅菌と消毒	29	胃ろう・腸ろう経管栄養の留意点	
13 確認試験	30	経鼻経管栄養の実施手順	
第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引	31	経鼻経管栄養の留意点	
13 呼吸のしくみとはたらき	32	子どもの経管栄養・経管栄養に必要なケア	
14 「喀痰吸引」とは・呼吸系の感染と予防	33	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、記録・報告	
15 人工呼吸器と吸引	34	まとめ・単位認定試験	
16 喀痰吸引で用いる器具の理解			
17 口腔内吸引の実施手順			
18 口腔内吸引の留意点			
19 鼻腔内吸引の実施手順			
20 鼻腔内吸引の留意点			
<p>[使用テキスト] 最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物</p>	
<p>[参考文献] 「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会 「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 医療的ケアⅡ		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元病院看護師
授業の回数 10回	時間数 20時間	配当学年・時期 介護福祉科2年	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 2 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる 			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 口腔内吸引 練習(医Ⅰ ⑰のあと) 2 口腔内吸引 試験 3 鼻腔内吸引 練習(医Ⅰ ⑲のあと) 4 鼻腔内吸引 試験 5 気管カニューレ内部の吸引 練習(医Ⅰ ⑳のあと) 6 気管カニューレ内部の吸引 試験 7 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 練習(医Ⅰ ㉔のあと) 8 胃ろうおよび腸ろうから経管栄養 試験 9 経鼻経管栄養 練習(医Ⅰ ㉖のあと) 10 経鼻経管栄養 試験 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>最新「介護福祉士養成講座15 医療的ケア第2版 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める通り ・レポート等の提出物 	
<p>[参考文献]</p> <p>「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会</p> <p>「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">介護過程Ⅲ</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義・演習)</p>	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 <p style="text-align: center;">15回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">30時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護福祉科2年</p>
<p style="text-align: center;">[授業の目的・ねらい]</p> 1、他の科目で学習した知識や技術を統合して介護課程を展開する能力を養う学習とする。介護実習で担当した介護過程の展開から介護総合実習Ⅱと連動し、ケーススタディにつなぐ学習とする。		
<p style="text-align: center;">[授業全体の内容の概要]</p> 総合実習の振り返りを行い、個々の介護課程の展開を振り返り、発表する中でよりよいケアの方法について検討する。		
<p style="text-align: center;">[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> 1、ICFに基づく情報のアセスメント、介護計画、実施、評価にいたる一連の展開について理解する。 2、観察観点に沿った情報整理ができ、適切にアセスメントすることができる。 3、介護過程の展開を通し、適切な支援技術をする際の根拠となる基礎知識の必要性を学ぶ。 4、多職種協働によるチームアプローチの必要性が理解できる。		
<p style="text-align: center;">[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> コマ数 1 ケーススタディとは 2 テーマの選定 3 ケーススタディの展開の方法 4 ケーススタディの展開の方法 5 ケーススタディの展開の方法 6 ケーススタディの展開 7 ケーススタディの展開 8 ケーススタディの展開 9 ケーススタディの展開 10 ケーススタディの展開 11 ケーススタディの展開 12 ケーススタディの展開 13 ケーススタディ発表 14 ケーススタディ発表 15 まとめ・考察		
<p>[使用テキスト]</p> 「ケーススタディの手引き」 広島福祉専門学校		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物
<p>[参考文献]</p> 「最新介護福祉全書7 介護過程」 「最新介護福祉全書別巻 障害別生活支援技術」 メジカルフレンド社		

令和7年度 授業概要

科目名 介護総合演習Ⅱ	授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師		
授業の駒数 30	時間数 60	配当学年・時期 介護福祉科2年 通年		
[授業の目的・ねらい] 介護演習は、介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことをねらいとしている。 そして、最終目的として、養成教育全体の総まとめであり、自己の介護観や介護福祉士としての倫理観や職業観の確立に向けて演習を行う。				
[授業全体の内容の概要] 介護総合演習Ⅱでは、参加実習、総合実習の実習全体の流れを軸において、理論学習や演習と関連付けながら、それぞれの実習に向けて、より効果的な実習が展開できるように準備をする。 実習巡回・帰校日を実施しながら、実習が円滑に行われるようにする。 実習後には、実習報告会を設けて、実習を学生全体のまなびとなるようにする。またケーススタディを通し、視野を広げ、学びを深め、介護についてその根拠を考察し、探求できるよう、サポートする。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 介護実習の指導 2. 他科目での学びの統合化 3. 多職種協働の意味と重要性の意識化 4. 養成教育全体の総まとめ・・・自己の介護観を確立することができる				
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数				
<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;"> 1 参加実習について考える 2 参加実習のねらい 3 介護過程展開 4 実習計画と個人票 5 夜間実習・緊急時の 6 多職種の 連携 7 介護過程の記録に 8 介護過程の記録について② 9 心構え 用紙の整理 10 自己評価、お礼状 11 実習記録の再検討 12 実習の振り返り(個人) 13 実習報告会の資料づくり 14 実習報告会(参加実 15 実習報告会(参加実 </td> <td style="width: 50%; border: none;"> 16 総合実習のねらい 17 総合実習の実習計画 個人票 18 介護過程の展開方法 19 介護過程の展開方法 20 介護過程と記録 21 心構え 用紙整理 22 自己評価・お礼状 23 実習の振り返り(個人) 24 実習のまとめ(介護過程部分) 25 実習報告資料づくり 26 実習報告資料づくり 27 実習報告会(事例報告) 28 実習報告会(事例報告) 29 まとめ 30 単位認定試験 </td> </tr> </table>			1 参加実習について考える 2 参加実習のねらい 3 介護過程展開 4 実習計画と個人票 5 夜間実習・緊急時の 6 多職種の 連携 7 介護過程の記録に 8 介護過程の記録について② 9 心構え 用紙の整理 10 自己評価、お礼状 11 実習記録の再検討 12 実習の振り返り(個人) 13 実習報告会の資料づくり 14 実習報告会(参加実 15 実習報告会(参加実	16 総合実習のねらい 17 総合実習の実習計画 個人票 18 介護過程の展開方法 19 介護過程の展開方法 20 介護過程と記録 21 心構え 用紙整理 22 自己評価・お礼状 23 実習の振り返り(個人) 24 実習のまとめ(介護過程部分) 25 実習報告資料づくり 26 実習報告資料づくり 27 実習報告会(事例報告) 28 実習報告会(事例報告) 29 まとめ 30 単位認定試験
1 参加実習について考える 2 参加実習のねらい 3 介護過程展開 4 実習計画と個人票 5 夜間実習・緊急時の 6 多職種の 連携 7 介護過程の記録に 8 介護過程の記録について② 9 心構え 用紙の整理 10 自己評価、お礼状 11 実習記録の再検討 12 実習の振り返り(個人) 13 実習報告会の資料づくり 14 実習報告会(参加実 15 実習報告会(参加実	16 総合実習のねらい 17 総合実習の実習計画 個人票 18 介護過程の展開方法 19 介護過程の展開方法 20 介護過程と記録 21 心構え 用紙整理 22 自己評価・お礼状 23 実習の振り返り(個人) 24 実習のまとめ(介護過程部分) 25 実習報告資料づくり 26 実習報告資料づくり 27 実習報告会(事例報告) 28 実習報告会(事例報告) 29 まとめ 30 単位認定試験			
[使用テキスト] ・介護福祉士養成講座編集委員会編：「介護総合演習・介護実習」、中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学校規定に準ずる 試験60点以上		
[参考文献]		・実習時の提出物などの提出の有無、内容 および報告会の内容・発表態度等も採点の評価とする。		

令和7度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">生活支援技術 I</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義) (演習) (実習)</p>	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 <p style="text-align: center;">10回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">20時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護福祉科1年 後期</p>
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。		
[授業全体の内容の概要] 身じたくと家事に関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみ、衣生活の調整能力、状態・状況に応じた身じたくと家事の留意点について学ぶ。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 身じたくと家事に関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみ、衣生活の調整能力、状態・状況に応じた身じたくと家事の留意点について理解する。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 自立を支える家事支援の意義 2 衣服の基本的知識と洗濯の技法 3 衣生活の介護の技法 衣服の洗濯と手入れ 4 衣服の補修① 5 衣服の補修② 6 衣服の補修③ 7 掃除・ゴミ捨ての技法 8 買い物・家庭経営・家計の管理 9 家事の介護における多職種との連携 10 まとめ・単位認定試験 11 12 13 14 15		
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I」(中央法規出版)	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 学則に定める通り	
[参考文献]		

令和7年度 授業概要

科目名 コミュニケーション技術		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 澤田祥子 広島県事業手話通訳士
授業の回数 10コマ	時間数 20時間	配当学年・時期 介護福祉科1年	
[授業の目的・ねらい] 聴覚障害を正しく理解する・初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる			
[授業全体の内容の概要] <ul style="list-style-type: none"> ・講義(聴覚障害への知識 福祉制度 等) ・実技演習(初歩的な手話の習得 手話で簡単なコミュニケーション演習) 			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 聴覚障害を正しく理解する 身の回りのことが手話で話せる。初歩的な手話でのコミュニケーションが取れる 聴覚障害者の気持ちを察することが出来る			
[授業終了時の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 講義:コミュニケーション方法と留意点 実技:聴覚障害者とのコミュニケーション方法 2 講義:聴覚障害の区別 実技:名前の表現・指文字 3 講義:聴覚障害の基礎知識(機能障害) 実技:挨拶 4 講義:聴覚障害者福祉制度① 実技:数の表現 5 講義:聴覚障害者福祉制度② 実技:趣味の表現 6 講義:聴覚障害児教育 実技:家族の表現 7 講義:ろうあ運動 実技:住所の表現 8 講義:合理的配慮 実技:自己紹介 9 まとめ(実技試験・筆記試験) 10 講義:ろう者から学ぼう 実技:ろう者と話してみよう			
[使用テキスト] 聞こえない人とのコミュニケーション		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。	
[参考文献]			

令和7年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">介護の基本 I-1</p>	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 野村 裕之 元 病院介護福祉士
授業の回数 50駒	時間数 100時間	配当学年・時期 介護福祉科1年 通年
[授業の目的・ねらい]		
介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。		
[授業全体の内容の概要]		
1.複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を学習する。2.地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を学習する。3.介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を学習する。4.ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を学習する。5.介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを学習する。6.介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を学習する。7.多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を学習する。8.介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学習する。9.介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学習する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)]		
1.複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。2.地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解する。3.介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を理解する。4.ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解する。5.介護を必要とする人の生活の個性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解する。6.介護を必要とする人の生活を支援するという観点から介護サービスや地域連携など、フォーマル、インフォーマルな支援を理解する。7.多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解する。8.介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。9.介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]		
コマ数		
1 介護とは(介護の歴史) 2 介護とは(介護問題の背景) 3 介護福祉の基本理念 4 介護福祉の定義と理念① 5 介護福祉の定義と理念② 6 介護福祉の理念 7 介護福祉の原則① 8 介護福祉の原則② 9 介護福祉養成カリキュラムの特徴 10 単元末まとめ① 11 単元末試験① 12 介護福祉の倫理① 13 介護福祉の倫理② 14 介護を必要とする人の理解(高齢者) 15 介護を必要とする人の理解(障害者) 16 フォーマルとインフォーマル 17 地域連携 18 多職種連携・協働の必要性 19 関連領域の役割(社会福祉士) 20 関連領域の役割(保健師・助産師・看護師) 21 関連領域の役割(リハビリテーション) 22 単元末まとめ② 23 単元末試験② 24 自立支援とは 25 ICFの活用	26 介護計画の展開 27 自立支援とリハビリテーション 28 リスクマネジメント 29 介護における感染症の対応 30 感染症対策 31 健康管理の意義と目的 32 からの健康管理 33 ころの健康管理 34 労働環境の整備 35 単元末まとめ③ 36 単元末試験③ 37 ノーマライゼーション 38 就労に関する支援 39 社会参加 40 多国間協力と今後の介護 41 インフォーマルサポートの役割 42 障害者を取り巻く制度① 43 障害者を取り巻く制度② 44 障害者を取り巻く制度③ 45 高齢者を取り巻く制度① 46 高齢者を取り巻く制度② 47 高齢者を取り巻く制度③ 48 介護の基本まとめ① 49 介護の基本まとめ② 50 単位認定試験・まとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・単位認定試験(単元末試験を含む) ・授業態度(授業を受ける姿勢)
介護福祉士養成講座3『介護の基本 I』 編集 介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規社) 介護福祉士養成講座4『介護の基本 II』 編集 介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規社)		・提出物(内容、提出期間の厳守) 基準は学則の定める通り
[参考文献]		
介護福祉学4『障害の理解』 (著)中川 義基 (主婦の友社) 介護福祉学5『こころからのしきみ』 (著)中川 義基 (主婦の友社)		

令和7年度 授業概要

科目名 介護の基本Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 野村 裕之 元 病院介護福祉士
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 介護福祉科2年 通年	
[授業の目的・ねらい] 介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしきみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 1. 介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を学習する。2. 様々な場面における介護福祉士の役割と機能を学習する。3. 介護福祉の専門性と倫理を学習する。4. ICFの視点に基づくアセスメントを学習する。5. 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するため、生活の多様性や社会とのかかわりについて学習する。6. フォーマル、インフォーマルな支援を学習する。7. 保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を学習する。8. リスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を学習する。9. 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学習する。			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解する。2. 様々な場面における介護福祉士の役割と機能を理解する。3. 介護福祉の専門性と倫理を理解する。4. ICFの視点に基づくアセスメントを理解する。5. 介護を必要とする人の生活の個別性に対応するため、生活の多様性や社会とのかかわりについて理解する。6. フォーマル、インフォーマルな支援を理解する。7. 保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割を理解する。8. リスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解する。9. 介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解する。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護福祉士の基本となる理念 2 介護福祉士の役割と機能 3 介護福祉士の倫理 4 自立に向けた介護 5 介護を必要とする人の理解 6 介護を必要とする人の生活を支えるし 7 協働する多職種の役割と機能 8 介護における安全の確保とリスクマネ 9 介護従事者の安全 10 介護の基本まとめ 11 介護のサービスを行う機関の理解 12 介護のサービスを行う専門職の理解 13 介護のサービスが必要な人の理解 14 介護の専門性と必要な知識・技術 15 単位認定試験・まとめ			
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座3『介護の基本Ⅰ』 編集 介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規社) 介護福祉士養成講座4『介護の基本Ⅱ』 編集 介護福祉士養成講座編集委員会(中央法規社)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・単位認定試験(単元末試験を含む) ・授業態度(授業を受ける姿勢) ・提出物(内容、提出期間の厳守) 基準は学則の定める通り	
[参考文献] 介護福祉学4『障害の理解』 (著)中川 義基 (主婦の友社) 介護福祉学5『こころとからだのしきみ』 (著)中川 義基 (主婦の友社)			

令和7年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">介護過程 I</p>	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 年幸 元病院介護福祉士
授業の回数 <p style="text-align: center;">30回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">60時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護福祉科1年・通年</p>
[授業の目的・ねらい] 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。		
[授業全体の内容の概要] 1. ケアプラン、介護過程とは何かについて学習する。 2. 介護過程と看護過程の類似と相違について学習する。 3. ICFの視点について学習する。 4. 介護過程を展開するうえでの介護福祉の法と職業倫理について学習する。 5. 利用者の人権と人格の尊重について学習する。 6. 各アセスメントツールの特徴について学習する。 7. 利用者の生活について学習する。 8. 社会資源について学習する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. ケアプラン、介護過程とは何かについて理解する。 2. 介護過程と看護過程の類似と相違について理解する。 3. ICFの視点について理解する。 4. 介護過程を展開するうえでの介護福祉の法と職業倫理について理解する。 5. 利用者の人権と人格の尊重について理解する。 6. 各アセスメントツールの特徴について理解する。 7. 利用者の生活について理解する。 8. 社会資源について理解する。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数		
1 介護過程の意義と基本的理解 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 介護過程の展開の理解 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	介護過程とは 介護過程の意義 生活上の目標と目的 アセスメントの意義 介護過程とICFの目的 ICFの特徴 ICFの構成要素 アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 活動 アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 参加 アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 心身機能 アセスメントに必要な「事実」のとらえ方 身体構造 実習先事例から介護過程を理解する 実習先事例から介護過程を理解する アセスメント 情報の解釈・分析 アセスメント 課題の明確化 アセスメントの視点 アセスメントの実際 高齢者の生きてきた時代、生活背景を理解する 全体像の把握 実習事例の情報の整理 実習事例の展開 アセスメント 実習事例の展開 目標設定 実習事例の展開 具体的援助内容 実習事例の展開 まとめ 事例展開 アセスメント 事例展開 目標設定 事例展開 具体的援助内容 事例展開 まとめ 制度と社会資源 試験・まとめ	
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程」(中央法規出版) 「ICF国際機能分類—国際障害分類改訂版—」(中央法規出版) 「介護福祉学 5 こころとからだのしくみ(上)」(主婦の友社)	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 学則のとおり	
[参考文献]		

令和7年度 授業概要

科目名 <p style="text-align: center;">介護総合演習 I</p>	授業の種類 <p style="text-align: center;">(講義)(演習)(実習)</p>	授業担当者 山崎 年幸 元病院介護福祉士
授業の回数 <p style="text-align: center;">30回</p>	時間数 <p style="text-align: center;">60時間</p>	配当学年・時期 <p style="text-align: center;">介護福祉科1年・通年</p>
[授業の目的・ねらい] 介護実践に必要な知識や技術の統合を行うとともに介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。		
[授業全体の内容の概要] 1. 介護総合演習の意義と目的について学習する。 2. 介護福祉士の職業倫理を学習する。 3. 実習施設の種別、内容、特徴について学習する。 4. 対人援助技術の基本的知識と技術を統合について学習する。 5. 介護記録、実習記録の書き方について学習する。 6. 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合する。 7. 実習で受け持った事例について介護過程を展開する。		
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 介護総合演習のの意味と意義について理解する。 2. 介護福祉士の職業倫理について理解する。 3. 実習施設の種別、内容、特徴等について理解する。 4. 対人援助技術の基本的知識と技術の統合について理解する。 5. 介護記録、実習記録の書き方について理解する。 6. 実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結び受けて統合し、自己の課題を明確にする。 7. 実習で受け持った事例について介護過程を展開できる。		
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 知識と技術の統合 実習の意義と目的 2 介護福祉士の職業倫理 3 介護活動の場と介護の特性 4 施設理解 居宅サービス・地域密着型サービス等 5 実習報告会から学ぶ 6 実習 I のねらい 到達目標 7 個人票・誓約書 施設概要 8 実習記録の意義・目的 9 介護実践と記録 10 実習自己評価・お礼状 11 実習の振り返りと学びの共有① 12 実習の振り返りと学びの共有② 13 実習記録の再検討 14 報告会準備① 15 報告会準備② 16 報告会準備③ 17 実習報告会 18 施設理解 施設サービス・障害福祉サービス 19 実習 II のねらい 到達目標 20 実習計画を考える 21 介護過程と実習記録 22 実習自己評価・お礼状 23 実習の振り返りと学びの共有 24 実習記録の再検討		

25	実習報告会	
26	実習報告会	
27	困難事例の検討	
28	困難事例の検討	
29	介護過程の記録・活用	
30	試験・まとめ	
<p>[使用テキスト]</p> <p>「最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習」(中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>学則の通り</p>
<p>[参考文献]</p> <p>「令和7年度 介護実習の手引き」広島福祉専門学校</p>		

令和7年度 授業概要

科目名 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山崎 年幸 元病院介護福祉士																																																															
授業の回数 20回	時間数 40時間	配当学年・時期 介護福祉科1年・前期																																																																
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。</p>																																																																		
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間関係とコミュニケーションの基礎とは、自己理解、他者理解を中心に対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。</p>																																																																		
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>自己理解と他者理解を深めて人間関係につなげていき、人間関係形成のためのコミュニケーション能力を習得する。コミュニケーションの意義を理解する。コミュニケーション能力の基盤となる情報の受け渡しには様々な方法があることを知る。場面や対象に応じて適切な情報の受け渡しの方法を選択できる。その選択した方法を実践できる。</p>																																																																		
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">1</td> <td style="width: 15%;">人間関係と心理</td> <td>人間関係の機能、自己覚知と他者理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>パーソナリティの発達と人間関係</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>集団のなかの人間関係</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>人間関係とストレス</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>対人関係とコミュ</td> <td>コミュニケーションの意義・目的</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ニケーション</td> <td>コミュニケーションの特性・構造</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>言語的コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>非言語コミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td>コミュニケーションを促す環境</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>アサーティブ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td>ポライトネス</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>コミュニケーション</td> <td>物理的・心理的距離の理解</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>の基礎</td> <td>基本的態度、受容、共感、傾聴</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td>対人援助関係の形成とバイスティックの原則</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td>マイクロカウンセリング、感情の転移・逆転移</td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>組織におけるコ</td> <td>組織のなかにおけるコミュニケーション</td> </tr> <tr> <td>17</td> <td>ミュニケーション</td> <td>組織における情報の流れとネットワーク</td> </tr> <tr> <td>18</td> <td>介護実践におけ</td> <td>ヒューマンサービスの特徴・特性</td> </tr> <tr> <td>19</td> <td>るチームマネジメ</td> <td>現場で求められるチームマネジメントと倫理・専門性</td> </tr> <tr> <td>20</td> <td>人間関係とコミュ</td> <td>人間関係とコミュニケーションのまとめ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ニケーションのま</td> <td></td> </tr> </table>				1	人間関係と心理	人間関係の機能、自己覚知と他者理解	2		パーソナリティの発達と人間関係	3		集団のなかの人間関係	4		人間関係とストレス	5	対人関係とコミュ	コミュニケーションの意義・目的	6	ニケーション	コミュニケーションの特性・構造	7		言語的コミュニケーション	8		非言語コミュニケーション	9		コミュニケーションを促す環境	10		アサーティブ	11		ポライトネス	12	コミュニケーション	物理的・心理的距離の理解	13	の基礎	基本的態度、受容、共感、傾聴	14		対人援助関係の形成とバイスティックの原則	15		マイクロカウンセリング、感情の転移・逆転移	16	組織におけるコ	組織のなかにおけるコミュニケーション	17	ミュニケーション	組織における情報の流れとネットワーク	18	介護実践におけ	ヒューマンサービスの特徴・特性	19	るチームマネジメ	現場で求められるチームマネジメントと倫理・専門性	20	人間関係とコミュ	人間関係とコミュニケーションのまとめ		ニケーションのま	
1	人間関係と心理	人間関係の機能、自己覚知と他者理解																																																																
2		パーソナリティの発達と人間関係																																																																
3		集団のなかの人間関係																																																																
4		人間関係とストレス																																																																
5	対人関係とコミュ	コミュニケーションの意義・目的																																																																
6	ニケーション	コミュニケーションの特性・構造																																																																
7		言語的コミュニケーション																																																																
8		非言語コミュニケーション																																																																
9		コミュニケーションを促す環境																																																																
10		アサーティブ																																																																
11		ポライトネス																																																																
12	コミュニケーション	物理的・心理的距離の理解																																																																
13	の基礎	基本的態度、受容、共感、傾聴																																																																
14		対人援助関係の形成とバイスティックの原則																																																																
15		マイクロカウンセリング、感情の転移・逆転移																																																																
16	組織におけるコ	組織のなかにおけるコミュニケーション																																																																
17	ミュニケーション	組織における情報の流れとネットワーク																																																																
18	介護実践におけ	ヒューマンサービスの特徴・特性																																																																
19	るチームマネジメ	現場で求められるチームマネジメントと倫理・専門性																																																																
20	人間関係とコミュ	人間関係とコミュニケーションのまとめ																																																																
	ニケーションのま																																																																	
<p>[使用テキスト]</p> <p>最新 介護福祉士養成課程1 人間の理解 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 学則の通り</p>																																																																
<p>[参考文献]</p>																																																																		

令和 7 年度 授業概要

科目名 生活支援技術Ⅲ		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 牟田口 辰巳 元広島大学大学院教育学研究科 特別支援教員講座教授
授業の回数 2	時間数 4	配当学年 介護福祉科 2 年	時期 通年
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>介護福祉士には、障害のある人の一人ひとりの尊厳を保持し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いた生活支援が求められる。 この科目では、視覚障害について</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害の詳しい原因や症状、制度的な位置づけ ・具体的にどのような生活上の困りごとが生じるのか、その困りごとに対して、介護福祉士としてどのようなかわりができるのかを学ぶ。 			
<p>〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害のある人の生活上の困りごとを理解できる ・視覚障害のある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解できる 			
<p>〔授業の各回のテーマ・内容〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障害について（概論） 2. 点字の理解とその実際 			
〔使用テキスト〕 配布資料		〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など)	
〔参考文献〕		<ul style="list-style-type: none"> ・学校規定に準ずる ・レポートなど提出物などの提出の有無も採点の評価となる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川義基編著：介護福祉学『障害の理解』、主婦の友社 ・ 谷口敏代・中村裕子編集：最新介護福祉全書『生活支援技術Ⅱ（障害編）』、メヂカルフレンド社 			

令和7年度 授業概要

科目名 介護実習 I		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師			
授業の駒数	時間数 45	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 前期		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p>						
<p>[授業全体の概要]</p> <p>介護実習では、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認ができるようにする。</p>						
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>高齢者や障害のある人が生活している地域社会には、多様な介護サービスがあることを理解し、施設・事業所の機能や基本的なケアを理解する。 基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。 利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。</p>						
<p>[授業の各回テーマ・内容]</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;">基礎実習 I</td> <td style="vertical-align: top;"> 実習施設・事業所（I） 通所介護 訪問介護 通所リハビリテーション 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 地域活動支援センター 医療型障害児入所施設 </td> </tr> </table>					基礎実習 I	実習施設・事業所（I） 通所介護 訪問介護 通所リハビリテーション 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 地域活動支援センター 医療型障害児入所施設
基礎実習 I	実習施設・事業所（I） 通所介護 訪問介護 通所リハビリテーション 小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護 地域活動支援センター 医療型障害児入所施設					
<p>[使用テキスト]</p> <p>「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物 			
<p>[参考文献]</p>						

令和7年度 授業概要

科目名 介護実習Ⅱ		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師			
授業の駒数	時間数 90	学科 介護福祉科	学年 1	配当時期 後期		
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、多職種との連携の中で、介護過程を実践する能力を養う実習とする。</p>						
<p>〔授業全体の概要〕</p> <p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を理解する。</p>						
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>①基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に行う必要があることを理解する。</p> <p>②利用者との人間的なふれあいを通じてコミュニケーションを深め、利用者のニーズや介護の機能について理解する。</p> <p>③高齢者や障害のある人が生活している社会には、多様な介護サービスがあることを理解し、多職種との連携によって、利用者の生活を支えていることを理解する。</p>						
<p>〔授業の各回テーマ・内容〕</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 30%; vertical-align: top;">基礎実習Ⅱ</td> <td style="vertical-align: top;"> 実習施設・事業所等（Ⅱ） 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅 </td> </tr> </table>					基礎実習Ⅱ	実習施設・事業所等（Ⅱ） 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅
基礎実習Ⅱ	実習施設・事業所等（Ⅱ） 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅					
<p>〔使用テキスト〕</p> <p>「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物 				
<p>〔参考文献〕</p>						

令和7年度 授業概要

科目名 介護実習Ⅲ		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	時間数 135	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 前期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、多職種との連携の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>				
<p>〔授業全体の概要〕</p> <p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画を作成し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本を学ぶ。</p>				
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>①高齢者や障害のある人が、その人らしく生活を送るために必要な多職種との協働や連携について学び、根拠に基づく介護実践の重要性を理解する。</p> <p>②介護過程に関する既習の知識・技術を基に、担当する利用者の情報を収集・分析・統合して、生活上の課題を抽出し、介護計画の立案ができる。</p> <p>③施設のカンファレンス等に参加し、介護をするうえで必要な多職種の役割について学び、生活を支援するチームの一員として協働すること及び介護福祉士の担う役割について理解する。</p>				
<p>〔授業の各回テーマ・内容〕</p> <p style="text-align: center;">参加実習</p> <p style="text-align: center;">実習施設・事業所等（Ⅱ）</p> <p style="text-align: center;">介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅</p>				
<p>〔使用テキスト〕</p> <p>「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物 	
<p>〔参考文献〕</p>				

令和7年度 授業概要

科目名 介護実習Ⅳ		授業の種類 実習	授業担当者 河野 ひろ子 元 病院・高齢者施設看護師	
授業の駒数	時間数 180	学科 介護福祉科	学年 2	配当時期 後期
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。</p> <p>本人の望む生活の実現に向けて、多職種との連携の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。</p>				
<p>〔授業全体の概要〕</p> <p>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。</p> <p>個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解し、利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。</p>				
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>①利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から実際の場面での介護過程の展開ができる。</p> <p>②チームの一員として介護に関わり、介護の専門性を踏まえた評価及び記録ができる。</p> <p>③介護福祉士としての自己の介護観が述べられる。</p>				
<p>〔授業の各回テーマ・内容〕</p> <p style="text-align: center;">総合実習</p> <p style="text-align: center;">実習施設・事業所等（Ⅱ）</p> <p style="text-align: center;">介護老人福祉施設 介護老人保健施設 広島原爆養護ホーム 障害者支援施設 サービス付き高齢者住宅</p>				
<p>〔使用テキスト〕</p> <p>「最新介護福祉士養成講座 10介護総合演習・介護実習」 中央法規</p>			<p>〔単位認定の方法及び基準〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定めるとおり ・レポート等の提出物 	
<p>〔参考文献〕</p>				

社会福祉科シラバス

4年課程

教員名	科目	時間数	教員の実務経験
内平 八重子	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30	社会福祉協議会 地域センター長として勤務 町 保健師として勤務
	専門演習	30	
上栗 明男	児童・家庭福祉論Ⅱ	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
	家族福祉論	30	
山崎 年幸	介護概論	30	病院にて介護福祉士として勤務
生田 麻衣	カウンセリング演習	60	東広島市教育委員会スクールソーシャルワーカーとして勤務
崎井 真弓	リハビリテーション論	30	病院 看護師として勤務
砂橋 昌義	福祉レクリエーション援助技術	60	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表として従事
野村 裕之	実務者(介護過程Ⅲ)	40	病院にて介護福祉士として勤務

実務経験のある教員等リスト

教員名	科目	時間数	教員の实務経験
内平 八重子	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	30	保健師 社会福祉協議会社会福祉士、センター長
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	30	
	専門演習	30	
	介護過程Ⅲ	20	
	卒業研究	60	
上栗 明男	児童・家庭福祉論Ⅱ	30	児童養護施設にて社会福祉士・管理職として勤務
	家族福祉論	30	
山崎 年幸	介護概論	30	病院にて介護福祉士として勤務
上栗 哲男	児童・家庭福祉論Ⅰ	30	児童養護施設の施設長として勤務
生田 麻衣	カウンセリング演習	60	東広島市教育委員会スクールソーシャルワーカーとして勤務
崎井 真弓	リハビリテーション論	30	病院にて看護師として勤務
	実務者演習(医療的ケア)	68	
砂橋 昌義	福祉レクリエーション援助技術	60	全国福祉レクリエーション・ネットワーク 事務局長・副代表 NPO法人ひろしまレクリエーション協会 理事長
野村 裕之	実務者理論(介護過程Ⅲ)	40	病院にて介護福祉士として勤務
内平 八重子 各実習施設指導者	ソーシャルワーク実習	240	実習施設指導者は福祉施設にて指導者要件のある人が担当 (法令上、実習指導者になる要件の一つとして、介護福祉士資格取得後3年以上の実務が必要)
	合計	788	

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

社会福祉科 788時間

令和7年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		授業の種類 (講義)演習・実習	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科3年 後期	
[授業の目的・ねらい] ①社会福祉士として求められる役割を理解し、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢を養う。 ②ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。			
[授業全体の内容の概要] ①社会福祉士として求められる役割 ②専門職の価値と倫理 ③ソーシャルワークに係る知識と技術			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①社会福祉士として求められる役割を理解でき、価値と倫理に基づく専門職としての姿勢が養われている。 ②ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力が身についている。			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 ソーシャルワーク実習のしくみ 2 実習記録について 3 実習計画について 4 施設概要・実習プログラムについて 5 学生調査票・誓約書・事前訪問について 6 施設概要作成 7 実習プログラム作成 8 実習に向けた心構え 9 ふりかえり 10 実習報告について 11 実習のまとめ 12 実習報告書作成 13 実習報告会 14 実習報告会 15 実習B総括と実習Aに向けて			
[使用テキスト] 「社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワーク実習指導・実習(社会専門8)」中央法規		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 施設概要完成度 20% 実習計画完成度 20% 授業態度 30% 実習報告書完成度 30%	
[参考文献]			

令和7年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		授業の種類 (講義)演習・実習	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務				
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 前期					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習の具体的な体験や援助活動を振り返り、専門的援助技術のとして概念化・理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養する。実践事例の報告と検討、総括を行い、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。</p>							
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の全体像をふりかえる。 ・実習で行った支援をふりかえる。 ・学んだこと、感じたことをまとめ、整理し、共有する。 ・自己の課題に気づく。 							
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の全体像をふりかえり、客観的に評価できる。 ・実習で行った支援をふりかえり、今後の支援のイメージが持てる。 ・考察洞察を深め、実習報告会で発表する。 ・自己の課題に気づくことができる。 							
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習Bの振り返り・課題確認 2 専門職の倫理綱領と実践についての理解 3 実習施設概要 4 目的目標の整理 5 実習プログラム作成 6 リスクマネジメント 7 実習関係再確認 8 実習A振り返り 9 事後指導とは 10 実習評価の理解 11 報告書作成 12 実習報告会 13 実習報告会 14 報告会の振り返り 15 自己のソーシャルワーカー像 							
<p>[使用テキスト]</p> <p>「社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワーク実習指導・実習(社会専門8)」中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">実践事例の報告</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">50%</td> </tr> <tr> <td>「実習報告書」</td> <td style="text-align: right;">50%</td> </tr> </table>		実践事例の報告	50%	「実習報告書」	50%
実践事例の報告	50%						
「実習報告書」	50%						
<p>[参考文献]</p>							

令和7年度 授業概要

科目名 介護過程Ⅲ(実務者)		授業の種類 (講義)演習・実習	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務						
授業の回数 10コマ	時間数 20時間	配当学年・時期 社会福祉科3年 前期							
[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義、目的を理解し、実践で使える知識技術を習得する。 学んだ知識技術を、実習につなげ、現場で実践できる力を養う。									
[授業全体の内容の概要] テキストに基づき、展開過程の順に進める。 インテークの演習や、事例を用いてアセスメント記録への落とし込みなど、実践に向けた訓練を行う。									
[授業終了時の達成課題(到達目標)] <ul style="list-style-type: none"> ・介護過程の目的、意義、展開等を理解している ・情報収集、アセスメント、計画立案を行うことができる ・利用者の心身の状況等に応じた介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し)を提供できる ・介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種・他機関との連携を行うことができる 									
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程／ケアマネジメント 2 意義と目的 3 ケアマネジメントの機能と行う際の視点 4 社会資源の活用1 5 社会資源の活用2 6 インテーク 7 アセスメント 8 ニーズ把握／課題分析 9 モニタリング／再アセスメント 10 まとめ／単元末試験									
[使用テキスト] 二訂介護福祉士養成 実務者研修テキスト 第5巻 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ その他、適宜資料を配布する		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">提出物</td> <td style="text-align: right;">15%</td> </tr> <tr> <td>授業態度</td> <td style="text-align: right;">15%</td> </tr> <tr> <td>試験評価</td> <td style="text-align: right;">70%</td> </tr> </table>		提出物	15%	授業態度	15%	試験評価	70%
提出物	15%								
授業態度	15%								
試験評価	70%								
[参考文献]									

令和7年度 授業概要

科目名 卒業研究		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務																														
授業の回数 30コマ	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 後期																															
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>主体的に取り組む研究過程を通して、研究の科学的アプローチを理解し、研究的な態度を習得する。</p>																																	
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究領域を決定し、指導教員のもとで研究をすすめる 2. 研究課題を絞り込むために文献検索を行い、抄読する 3. 研究課題(テーマ)の決定と研究計画書の作成、および研究の実施 4. 卒業論文の作成、抄録の作成・提出 5. 卒業研究の発表(3月上旬) 																																	
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉分野において明確にしたり解決すべき現象・問題・疑問事項、すなわち研究課題を明らかにする。 2. 研究課題を絞り込み、研究目的を明らかにする。 3. 研究目的にそって研究計画をたてる。 4. 研究計画にそってデータを収集し、分析を行う。 5. 研究によって得られた知見をまとめ、論文および抄録を作成し、口頭発表を行う。 																																	
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td style="width: 50%;">1 ガイダンス／卒業研究とは</td><td style="width: 50%;">16 中間確認</td></tr> <tr><td>2 先輩の卒業研究の分析</td><td>17 論文作成</td></tr> <tr><td>3 テーマの方向性</td><td>18 論文作成</td></tr> <tr><td>4 論文の構想・準備</td><td>19 論文作成</td></tr> <tr><td>5 論文の構想・準備</td><td>20 論文作成</td></tr> <tr><td>6 論文の構想・準備</td><td>21 論文作成</td></tr> <tr><td>7 論文の構想・準備</td><td>22 論文作成</td></tr> <tr><td>8 先行研究検察</td><td>23 論文作成</td></tr> <tr><td>9 先行研究検察</td><td>24 論文作成</td></tr> <tr><td>10 先行研究検察</td><td>25 発表準備</td></tr> <tr><td>11 先行研究検察</td><td>26 発表準備</td></tr> <tr><td>12 資料収集／文献調査</td><td>27 研究発表会</td></tr> <tr><td>13 資料収集／文献調査</td><td>28 研究発表会</td></tr> <tr><td>14 資料収集／文献調査</td><td>29 研究発表会</td></tr> <tr><td>15 資料収集／文献調査</td><td>30 発表のふりかえり／研究のふりかえり</td></tr> </table>				1 ガイダンス／卒業研究とは	16 中間確認	2 先輩の卒業研究の分析	17 論文作成	3 テーマの方向性	18 論文作成	4 論文の構想・準備	19 論文作成	5 論文の構想・準備	20 論文作成	6 論文の構想・準備	21 論文作成	7 論文の構想・準備	22 論文作成	8 先行研究検察	23 論文作成	9 先行研究検察	24 論文作成	10 先行研究検察	25 発表準備	11 先行研究検察	26 発表準備	12 資料収集／文献調査	27 研究発表会	13 資料収集／文献調査	28 研究発表会	14 資料収集／文献調査	29 研究発表会	15 資料収集／文献調査	30 発表のふりかえり／研究のふりかえり
1 ガイダンス／卒業研究とは	16 中間確認																																
2 先輩の卒業研究の分析	17 論文作成																																
3 テーマの方向性	18 論文作成																																
4 論文の構想・準備	19 論文作成																																
5 論文の構想・準備	20 論文作成																																
6 論文の構想・準備	21 論文作成																																
7 論文の構想・準備	22 論文作成																																
8 先行研究検察	23 論文作成																																
9 先行研究検察	24 論文作成																																
10 先行研究検察	25 発表準備																																
11 先行研究検察	26 発表準備																																
12 資料収集／文献調査	27 研究発表会																																
13 資料収集／文献調査	28 研究発表会																																
14 資料収集／文献調査	29 研究発表会																																
15 資料収集／文献調査	30 発表のふりかえり／研究のふりかえり																																
<p>[使用テキスト]</p> <p>三訂福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方 川村匡由 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td style="width: 60%;">授業態度</td><td style="width: 40%;">20%</td></tr> <tr><td>プロセス</td><td>30%</td></tr> <tr><td>コンテンツ</td><td>50%</td></tr> </table>		授業態度	20%	プロセス	30%	コンテンツ	50%																								
授業態度	20%																																
プロセス	30%																																
コンテンツ	50%																																
<p>[参考文献]</p> <p>大学生のためのレポート・論文の書き方 ナツメ社 大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方 ナカニシヤ出版 レポート・論文の書き方入門 慶応義塾大学出版社</p>																																	

令和7年度 授業概要

科目名 家族福祉論		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 上栗 明男 児童福祉施設副園長
授業の回数 15	時間数 30	配当学年・時期 社会福祉科3年	
<p>[授業の目的・ねらい] 子どものウエルビーイングは家族のウエルビーイングといわれ、子ども福祉の課題のバックグラウンドには家庭や社会の課題が潜んでいる。家族への支援が子どもへの支援につながることを理解する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要] テキストを中心に進めるが、報道される事件・事案や事例問題を取り入れて理解を深めていく。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 家庭支援の制度やサービス機関の活用のみならず、子ども支援と家庭支援の双方からのサービスの意義も理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会的養護を受ける子どもから見た家庭 2 家庭支援が求められる背景 3 家庭支援を要する家庭の連鎖 4 福祉・教育機関における家庭支援 5 特別なニーズを持つ親子への支援 6 虐待的家庭への支援 7 事例問題1「虐待家庭への見守り」 8 発達課題を持つ児童の家庭への支援 9 児童心理治療施設における家庭支援 10 家庭支援に関わる制度と機関 11 事例問題2「危機介入サービス」 12 家族支援とリスクマネジメント 13 児童相談所と児童家庭支援センター 14 事例検討「家庭支援の限界ケース」 15 まとめ 			
<p>[使用テキスト] 橋本真紀・山県文治「よくわかる家庭支援論」 ミネルバ書房</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 試験90%・授業への参加度10%</p>	
<p>[参考文献] 畠中宗一編「よくわかる家族福祉」 ミネルバ書房</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 児童・家庭福祉論Ⅱ		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 明男 児童福祉施設副園長
授業の回数 15 コマ	時間数 30 時間	配当学年・時期 社会福祉科3年	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもしっかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>テキストを中心に進めるが、單元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入所児童からの訴え（作文集『続・泣くものか』） 2 現代社会と子ども家庭の問題 3 子どものための福祉の原理 4 日本の児童福祉の歴史 5 戦後の児童福祉の歩み 6 児童福祉法 7 児童相談所と関連機関 8 児童福祉施設 9 児童の社会的養護サービス 10 児童虐待の定義 11 児童虐待の実態 12 子どもを虐待から保護する仕組み 13 子ども家庭への相談援助活動 14 施設ケアの内容 15 まとめと試験 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度」（中央法規出版）</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 試験を基本（90%）とするが、授業への取り組み （出席状況・マナー等 10%）も加味する。</p>	
<p>[参考文献]</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 介護概論		授業の種類 (講義)演習・実習)	授業担当者 山崎 年幸 元病院介護福祉士																																													
授業の回数 15コマ	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科3年 通年																																														
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①社会福祉に求められる介護の意義を学ぶ。②介護の機能と範囲を学ぶ。③介護を必要とする人間の理解と尊厳を大切にしなければならないことを学ぶ。④介護に関わる関係職種の理解と連携について学ぶ。⑤自立に向けた介護の意義を学ぶ。⑥福祉用具の理解と、介護過程の意義について学ぶ。⑦これからの望ましい介護のあり方を考えられる力をつける。</p>																																																
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>福祉の専門職に求められる倫理・多様なニーズに応える実践力が高まってきたため、社会福祉の現場では、社会福祉士と介護福祉士は、協働者として常に活躍している。そのため、介護福祉とはどのような機能と範囲であるかを理解し、連携のあり方を学習する内容とする。また、社会福祉の視点を持ちながら、介護実践を学ぶ内容とするためにも、人間の尊厳を重視した介護の本質を理解できる学習とする。</p>																																																
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>①社会福祉に求められる介護の意義が理解できる。 ②介護の機能と範囲が理解できる。③介護を必要とする人間の理解と尊厳を大切にできる。 ④介護に関わる関係職種の理解と連携の義務が理解できる。 ⑤自立に向けた介護の意義の理解ができる。⑥福祉用具の理解と、介護過程の意義が理解できる⑦これからの望ましい介護のあり方を考えられる。</p>																																																
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1 介護の概念と範囲</td> <td style="width: 30%;">社会福祉士と介護</td> <td style="width: 40%;">講義・演習</td> </tr> <tr> <td>2 介護の理念</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>3 介護の対象</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>4 介護過程</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>5 介護の予防</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>6 自立に向けた介護</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>7 家事における自立支援</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>8 身支度、移動、睡眠の介護</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>9 食事、口腔衛生の介護</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>10 入浴、清潔、排泄の介護</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>11 認知症ケア</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>12 終末期ケア</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>13 住環境</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>14 医療的ケア</td> <td></td> <td>講義・演習</td> </tr> <tr> <td>15 介護における専門職の役割と連携</td> <td>試験</td> <td>講義・演習</td> </tr> </table>				1 介護の概念と範囲	社会福祉士と介護	講義・演習	2 介護の理念		講義・演習	3 介護の対象		講義・演習	4 介護過程		講義・演習	5 介護の予防		講義・演習	6 自立に向けた介護		講義・演習	7 家事における自立支援		講義・演習	8 身支度、移動、睡眠の介護		講義・演習	9 食事、口腔衛生の介護		講義・演習	10 入浴、清潔、排泄の介護		講義・演習	11 認知症ケア		講義・演習	12 終末期ケア		講義・演習	13 住環境		講義・演習	14 医療的ケア		講義・演習	15 介護における専門職の役割と連携	試験	講義・演習
1 介護の概念と範囲	社会福祉士と介護	講義・演習																																														
2 介護の理念		講義・演習																																														
3 介護の対象		講義・演習																																														
4 介護過程		講義・演習																																														
5 介護の予防		講義・演習																																														
6 自立に向けた介護		講義・演習																																														
7 家事における自立支援		講義・演習																																														
8 身支度、移動、睡眠の介護		講義・演習																																														
9 食事、口腔衛生の介護		講義・演習																																														
10 入浴、清潔、排泄の介護		講義・演習																																														
11 認知症ケア		講義・演習																																														
12 終末期ケア		講義・演習																																														
13 住環境		講義・演習																																														
14 医療的ケア		講義・演習																																														
15 介護における専門職の役割と連携	試験	講義・演習																																														
<p>[使用テキスト]</p> <p>一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 最新社会福祉士養成講座 高齢者福祉 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>筆記試験および出席状況、授業態度、提出物等を総合的に勘案し、評価する。評価基準は学則に定める通り。</p>																																														
<p>[参考文献]</p> <p>介護福祉学研究会監修:介護福祉学、中央法規出版(株)</p> <p>(編集)社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座13『高齢者に対する支援と介護保険制度』第6版 中央法規</p>																																																

令和7年度 授業概要

科目名 児童・家庭福祉論 I		授業の種類 講義・演習	授業担当者 上栗 哲男 児童福祉施設理事長
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科3年 前期	
<p>〔授業の目的・ねらい〕 わが国は本格的な少子高齢社会を迎え、これまでのウエルフェア中心の児童福祉からウエルビーイングをもっとかりと見据えた児童家庭福祉への転換が求められる時代を迎えた。この新たな状況や課題を踏まえて、児童家庭福祉の諸課題と制度や実践に関する知識や倫理等について学ぶ。</p>			
<p>〔授業全体の内容の概要〕 テキストを中心に進めるが、單元ごとに練習問題や事例問題を取り入れて理解度を確認していく。</p>			
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 レポートの課題、科目終了試験の課題に対応できるようにしておく。</p>			
<p>〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 入所児童からの訴え(作文集『続・泣くものか』) 2 現代社会と子ども家庭の問題 3 子どものための福祉の原理 4 日本の児童福祉の歴史 5 戦後の児童福祉の歩み 6 児童福祉法 7 児童相談所と関連機関 8 児童福祉施設 9 児童の社会的養護サービス 10 児童虐待の定義 11 児童虐待の実態 12 子どもを虐待から保護する仕組み 13 子ども家庭への相談援助活動 14 施設ケアの内容 15 まとめと試験 			
<p>〔使用テキスト〕 社会福祉士養成講座編集委員会編集 「新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」(中央法規出版)</p>		<p>〔単位認定の方法及び基準〕 (試験やレポートの評価基準など) 試験を基本(90%)とするが、授業への取り組み(出席状況・マナー等 10%)も加味する。</p>	
<p>〔参考文献〕</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 リハビリテーション論		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 社会福祉科3年	
[授業の目的・ねらい] 障害を負った人が社会復帰を目指すとき、医療職や理学療法士等の多職種連携によるチームアプローチが必須の手法として求められる。中でも連携や制度の活用を中心となる職種であるため、リハビリテーションの理論を理解していく			
[授業全体の内容の概要] リハビリテーションは障害者への総合的対策・技術であり、身体のみならず、精神的、社会的、経済的、職業的に可能な限りの回復を図る援助過程である。その意味では、障害者の基本的人権の具体化をめざす総合的援助体系であるともいえる。本科目では、医学的リハビリテーション、職業的リハビリテーション、社会的リハビリテーションの理論と実践のバランスをよく学ぶことで、総合的な援助体系とし障害者の「自立」に必要な社会環境について理解を深める			
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 1 リハビリテーションの理念の理解 2 社会資源の理解 3 4領域のリハビリテーションの理解とICFを用いた支援技法の習得			
[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法] コマ数 1 リハビリテーション論を学ぶ目的 2 リハビリテーションの理念について 1 「リハビリテーション」の語源や定義の歴史の変遷について。 3 リハビリテーションの理念について 2 戦傷者のリハビリテーションから障害者(一般)への対象の拡大 4 リハビリテーションの理念について 3 世界保健機関(1968)及び国連・障害者に関する世界行動計画(1982)による定義について。 5 リハビリテーションの理念について 4 自立・ノーマライゼーション・生活の質・機会均等化・完全参加と平等、「全人間的復権」について。 6 障害者の「自立」に必要な社会環境について 1 社会環境整備の目的について(完全参加と平等。障害者も社会を構成する一員である)。 7 障害者の「自立」に必要な社会環境について 2 障害者のすべての生活場面(社会・教育・職業等)における完全参加と平等・自立について。 8 障害者の「自立」に必要な社会環境について 3 心(意識)のバリアフリーとハード(物理的)のバリアフリーについて。 9 障害者の「自立」に必要な社会環境について 4 活動制限から完全参加へ(福祉用具やユニバーサルデザイン等)。 10 障害者の「自立」に必要な社会環境について 4 演習 ユニバーサルデザインの体験。 11 医療リハビリテーションと専門職 医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割や医療・療育機関について。 12 職業リハビリテーションについて 障害者の経済活動への支援施策や障害者雇用促進法について。 13 社会リハビリテーション・教育リハビリテーションについて 障害者の「社会生活力」向上への支援。SST。障害児の教育支援について。 14 地域リハビリテーションについて 入所から地域生活へ。その生活を支援するシステムネットワークと専門職について。 15 まとめ・単位認定試験			
[使用テキスト] リハビリテーションテキスト 人間発達学 MEDICAL VIEW		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) ・学則に定める通り ・レポート等の提出物	
[参考文献] 「最新介護福祉全書別巻2 リハビリテーション論」 メジカルフレンド社 「よくわかるリハビリテーション」ミネルヴァ書房			

令和7年度 授業概要

科目名 医療的ケア I		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元 病院看護師
授業の回数 34回	時間数 54時間	配当学年・時期 社会福祉科3年	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療的ケアに関する基礎的知識が理解できる 2 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 3 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる 			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p>			
第1節 医療的ケアの基礎	20	こどもの吸引・記録、報告の重要性	
1 医療的ケアの定義	21	喀痰吸引に伴うケア	
2 「医行為」とは	22	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認	
3 個人の尊厳と医療の倫理①	23		
4 個人の尊厳と医療の倫理②	23	確認試験	
5 医療的ケアを安全に行うための研修	第3節 高齢者および障害児・者の経管栄養		
6 保健医療制度・医療過誤と無資格者による医業	24	消化器系のしくみとはたらき	
7 チーム医療と介護職員の連携	25	「経管栄養」とは	
8 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施	26	注入する内容に関する知識	
9 健康状態・急変状態	27	経管栄養で用いる器具の理解・清潔保持	
10 救急蘇生	28	胃ろう・腸ろう経管栄養の実施手順と留意点	
11 感染予防・滅菌と消毒	29		
12 確認試験	29	経鼻経管栄養の実施手順と留意点	
第2節 高齢者および障害児・者の喀痰吸引	30	経管栄養実施上の留意点・こどもの経管栄養	
13 呼吸のしくみとはたらき	31	経管栄養に必要なケア	
14 「喀痰吸引」とは・呼吸器系の感染と予防	32	経管栄養に関する感染と予防	
15 喀痰吸引で用いる器具の理解・清潔保持	33	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認	
16 口腔内吸引の実施手順と留意点	34		
17 鼻腔内吸引の実施手順と留意点	34	まとめ・単位認定試験	
18 人工呼吸療法と吸引			
19 気管カニューレ内部の吸引の実施手順と留意点			
<p>[使用テキスト]</p> <p>「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める通り ・レポート等の提出物 	
<p>[参考文献]</p> <p>「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 医療的ケアⅡ		授業の種類 (講義・演習)	授業担当者 崎井 真弓 元病院看護師
授業の回数 7回	時間数 14時間	配当学年・時期 社会福祉科3年	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援を必要とする要支援者のうち、医行為を必要とする要支援者は増加傾向にある。尊厳を尊重する視点から、介護福祉士が医療的ケアを実施するニーズが高まっていることから、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>医療的ケアに関連する法制度や倫理、医療関係者との連携や関連職種とその役割を理解し、医療的ケア実施における基礎知識を踏まえ、安全かつ適切な実施手順のもと喀痰吸引・経管栄養等が行えるための知識と技術を学習する。またその実施に伴い必要となる健康状態の把握、急変時の対応、清潔行為、感染予防等についても学ぶ。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喀痰吸引の基礎的知識および実勢手順と留意点を理解することができる 2 経管栄養の基礎的知識および実施手順と留意点を理解することができる 			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 口腔内吸引の基本手順 2 鼻腔内吸引の基本手順 3 気管カニューレ内部の吸引の基本手順 4 喀痰吸引の実技試験 5 胃ろうおよび腸ろうからの経管栄養の基本手順 6 経鼻経管栄養の基本手順 7 経鼻経管栄養の実技試験 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>「介護福祉士養成テキスト第4巻 医療的ケア」 日本介護福祉士養成施設協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学則に定める通り ・レポート等の提出物 	
<p>[参考文献]</p> <p>「最新介護福祉全書13 医療的ケア」 メジカルフレンド社</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 福祉レクリエーション援助技術		授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 砂橋 昌義 広島県レクリエーション協会事務局長
授業の回数 30コマ	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科 4年 通年	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レクリエーションの持つ楽しさや心地よさを活用して、人々を支援するための、基礎的な考え方や技術を身につける。</p> <p>援助技術を身につけた福祉レクリエーション・ワーカーの育成と資格取得対策。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会福祉士として、レクリエーション支援方法や、対象者の主体性を尊重する姿勢など、レクリエーション支援の概要を理解する。また、具体的な活動支援や事業を考え、現場で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象にしたコミュニケーション・ワーク技法を身につけた福祉レクリエーションワーカーの育成と資格取得を目指した試験の対策。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>介護現場で、楽しさ・心地よさを引き出すレクリエーション支援ができる福祉レク・ワーカーの資格取得。</p>			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の考え方 2 レクリエーション財の分類とレクリエーション財をどう生かすかの方策 3 レクリエーション財の活動分析の考え方と方法 4 活動分析の方法とその分析をどのように活用するかの方策 5 障害や個人に対応したレクリエーション財の選択・開発・アレンジ 6 レクリエーション財のアレンジの実際 7 事例からみたレクリエーション財の提供の仕方 8 情報収集、人的ネットワーク、社会資源の活用方策 9 楽しみを基調とした回想法・音楽療法・園芸療法 10 楽しみを基調としたフラワーセラピー・化粧療法・動物介在療法 11 楽しみを基調にしたダンス療法・プレイセラピー 12 援助のための対人援助者に求められる資質 13 援助のためのコミュニケーション技法 14 実践例題(言葉かけとリスニング) 15 援助者の人間開発トレーニング 16 老人病院でのレクリエーション援助 17 老人保健施設におけるセラピューティックレクリエーションの取り組み 18 特別養護老人ホームでのレクリエーション援助 19 通所としての老人デイサービスセンターでのレクリエーション援助 20 ホームヘルプサービス利用者へのレクリエーション援助 21 心身障害者施設でのレクリエーション援助 22 精神病院でのレクリエーション援助 23 知的障害者施設でのレクリエーション援助 24 児童施設でのレクリエーション援助 25 地域ボランティアとしてのレクリエーション援助 26 福祉レクリエーションワーカー・プログラム計画書の作成 27 個人への直接のレクリエーション援助の実技試験クリニック 28 グループへのレクリエーション援助の実技試験クリニック 29 福祉レクリエーションワーカー模擬筆記試験 30 福祉レクリエーションワーカー学内審査 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>楽しさの追求を支えるための介入技術 ～公益財団法人 日本レクリエーション協会編～</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>出席数、授業態度、レポート、試験成績から総合的に判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p> <p>よく分かる福祉レクリエーションサービス実施マニュアル 3</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 介護過程Ⅲ(実務者研修)		授業の種類 (講義 ・ 演習 ・実習)	授業担当者 野村 裕之 元病院介護福祉士																														
授業の回数 20回	時間数 40時間	配当学年・時期 社会福祉科3年 通年																															
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりが望む生活を実現する介護サービスを提供するために、その利用者の情報収集を行い、解決すべき課題を把握し、介護計画を立案し、実施し、評価するという一連の行為を学ぶ。 ・ICFに基づく介護過程の展開を学ぶ。 																																	
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①介護過程の意義、目的、展開等を学び、介護過程を踏まえ目標に沿って計画的に介護を行うことについて学ぶ。 ②介護過程を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援。他職種、他機関との連携について学ぶ。 ③知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント) 																																	
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ①介護過程の意義、目的、展開等を学び、介護過程を踏まえ目標に沿って計画的に介護を行うことについて学ぶ。 ②介護過程を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援。他職種、他機関との連携について学ぶ。 ③知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護(アセスメント) 																																	
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1 オリエンテーション・介護過程とは</td> <td style="width: 50%;">16 ICFに基づく介護過程(事例学習)②</td> </tr> <tr> <td>2 介護過程の構成要素と意義</td> <td>17 ICFに基づく介護過程(事例学習)③</td> </tr> <tr> <td>3 介護過程におけるニーズ・介護福祉の役割</td> <td>18 介護計画に基づく介護技術</td> </tr> <tr> <td>4 ICFの特徴・基本的な考え方</td> <td>19 介護保険法・障害者総合支援法のサービスと介護過程</td> </tr> <tr> <td>5 ICFの構成要素、ICFに基づく介護過程とは</td> <td>20 まとめ・試験</td> </tr> <tr> <td>6 アセスメントとは</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>7 事例を使った情報収集①</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>8 情報の統合(情報の整理)</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>9 ニーズとは</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>10 計画の立案とは</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>11 計画の実施とは</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>12 計画の評価とは</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>13 介護過程の再立案について</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>14 介護過程について再認識</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>15 ICFに基づく介護過程(事例学習)①</td> <td>30</td> </tr> </table>				1 オリエンテーション・介護過程とは	16 ICFに基づく介護過程(事例学習)②	2 介護過程の構成要素と意義	17 ICFに基づく介護過程(事例学習)③	3 介護過程におけるニーズ・介護福祉の役割	18 介護計画に基づく介護技術	4 ICFの特徴・基本的な考え方	19 介護保険法・障害者総合支援法のサービスと介護過程	5 ICFの構成要素、ICFに基づく介護過程とは	20 まとめ・試験	6 アセスメントとは	21	7 事例を使った情報収集①	22	8 情報の統合(情報の整理)	23	9 ニーズとは	24	10 計画の立案とは	25	11 計画の実施とは	26	12 計画の評価とは	27	13 介護過程の再立案について	28	14 介護過程について再認識	29	15 ICFに基づく介護過程(事例学習)①	30
1 オリエンテーション・介護過程とは	16 ICFに基づく介護過程(事例学習)②																																
2 介護過程の構成要素と意義	17 ICFに基づく介護過程(事例学習)③																																
3 介護過程におけるニーズ・介護福祉の役割	18 介護計画に基づく介護技術																																
4 ICFの特徴・基本的な考え方	19 介護保険法・障害者総合支援法のサービスと介護過程																																
5 ICFの構成要素、ICFに基づく介護過程とは	20 まとめ・試験																																
6 アセスメントとは	21																																
7 事例を使った情報収集①	22																																
8 情報の統合(情報の整理)	23																																
9 ニーズとは	24																																
10 計画の立案とは	25																																
11 計画の実施とは	26																																
12 計画の評価とは	27																																
13 介護過程の再立案について	28																																
14 介護過程について再認識	29																																
15 ICFに基づく介護過程(事例学習)①	30																																
<p>[使用テキスト]</p> <p>介護福祉士養成 実務者研修テキスト 介護過程 第2版 編集 介護職員関係養成研修テキスト作成委員会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位認定試験(単元末試験を含む) ・授業態度(授業を受ける姿勢) ・提出物(内容、提出期間の厳守) <p>基準は学則の定める通り</p>																															
<p>[参考文献]</p> <p>病気が見える Vol.11 運動器・整形外科 第1版 編集 医療情報科学研究所(メディックメディア) 介護福祉学5『こころとからだのしくみ』 (著)中川 義基 (主婦の友社)</p>																																	

令和7年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習		授業の種類 (講義・演習・ 実習)	授業担当者 内平 八重子 元保健師・社会福祉協議会勤務
授業の回数 30コマ	時間数 60時間	配当学年・時期 社会福祉科3年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>厚生労働省により定められている指定施設・機関を実習先とし、施設・機関の役割及びサービス利用者やその関係者について学び、利用者やその家族のニーズに応じた相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を体得します。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得するとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ソーシャルワーク実習は、異なる機関・事業所の2カ所以上で3年次、4年次の2回に分けて行う。3年次の実習は60時間、利用者理解、施設理解を中心とする。4年時には、1つの機関・事業所において以下の要件を含めた180時間以上の実習を行う。</p> <p>①1つの機関・事業所において、一定期間以上継続して実習を行う中で、支援計画の作成、実施、評価といったソーシャルワークの一連の過程を網羅的に実践すること。</p> <p>②実習機関・事業所と、複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた、総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ実習とすること。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 2.支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 3.生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 4.施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 5.総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>ソーシャルワーク実習は、異なる機関・事業所の2カ所以上で3年次、4年次の2回に分けて行うこととする。3年次の実習は60時間、利用者理解、施設理解を中心とする。4年時には、1つの機関・事業所において以下の要件を含めた180時間以上の実習を行う。</p> <p>①1つの機関・事業所において、一定期間以上継続して実習を行う中で、支援計画の作成、実施、評価といったソーシャルワークの一連の過程を網羅的に実践すること。</p> <p>②実習機関・事業所と、複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた、総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ実習とすること。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。</p>			
<p>[使用テキスト]</p> <p>「社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座ソーシャルワーク実習指導・実習(社会専門8)」中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>相談援助実習指導の授業および、実習施設における実習評価によって判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p>			

令和7年度 授業概要

科目名 ソーシャルワーク実習		授業の種類 (講義・演習・ 実習)	授業担当者 内平 八重子
授業の回数 90コマ	時間数 180時間	配当学年・時期 社会福祉科4年 後期	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>厚生労働省により定められている指定施設・機関を実習先とし、施設・機関の役割及びサービス利用者やその関係者について学び、利用者やその家族のニーズに応じた相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し、実践的な技術を体得します。また、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得するとともに、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p>			
<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>ソーシャルワーク実習は、異なる機関・事業所の2カ所以上で3年次、4年次の2回に分けて行うこととする。 3年次の実習は60時間、利用者理解、施設理解を中心とする。4年時には、1つの機関・事業所において以下の要件を含めた180時間以上の実習を行う。 ①1つの機関・事業所において、一定期間以上継続して実習を行う中で、支援計画の作成、実施、評価といったソーシャルワークの一連の過程を網羅的に実践すること。 ②実習機関・事業所と、複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた、総合的かつ包括的な支援について実践的に学ぶ実習とすること。 ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して実習生及び実習指導者との連絡調整を</p>			
<p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.ソーシャルワークの実践に必要な各科目の知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。 2.支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)について把握する。 3.生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。 4.施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。 5.総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 			
<p>[授業の日程と各回テーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成について学ぶ 2.社会福祉施設・機関の経営やサービスの管理運営について学ぶ 3.社会福祉施設・機関の利用者、また生活ニーズについて学ぶ 4.社会福祉施設・機関の職員の役割、また他職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチを学ぶ 5.クライアントへの援助実践を通じて、相談援助技術を高める 6.社会福祉施設・機関と地域社会との関係性について理解し、地域社会への具体的な働きかけについて学ぶ 7.社会福祉士としての職業倫理、職員の就業に関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について学ぶ 			
<p>[使用テキスト]</p> <p>「社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワーク実習指導・実習(社会専門8)」中 央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>相談援助実習指導の授業および、実習施設における実習評価によって判断する。</p>	
<p>[参考文献]</p>			